

# 事業成果報告書

## I. 調査研究の要旨

近年、幼児教育・保育職を取り巻く環境は、質・量ともに多くの事柄が求められるようになってきている。そういった、多忙感や人間関係の複雑さ等から、幼稚園教諭等保育従事者の不調や離職率の高さが課題となっている。また、それが広く報道されることで、未来の幼稚園教諭等保育従事者予備軍である保育者養成校（幼稚園教諭等養成施設のことを、保育者養成校と記載）の入学者数の減少につながっていると考えられる。

こういった流れを打開すべく、本学では高校生を中心に「講演や出張授業」、「定期演奏会」、「オープンキャンパスでの模擬授業」など様々な場面で幼児教育の魅力を伝える活動に取り組んできた。また、在学時から長期的視野に立ったキャリア形成支援を行うことで、卒業生の離職率の減少や、一般職を経て幼児教育・保育職への復職などの多様なキャリアパスへの対応をできるような卒業生の輩出に努めてきた。

昨年度は、事業採択を受け、幼児教育の魅力を子どもと共に創る保育＝「共創」と捉え、従来の活動に加え、「幼児教育の魅力や保育者養成校での学びの具体的な姿を伝える動画作成」、「幼児教育の魅力を伝える TikTok の制作」、「プレオープンキャンパスで養成校生が考えた幼児教育の魅力に関する活動の実施」等を通して発信を行った。

今年度は昨年度の取り組みで出された課題をもとに、より広く幼児教育の魅力を伝える為に、以下の取り組みを行った。

①現職の幼稚園教諭等保育従事者及び卒業生に対し、資質能力の向上や職場復帰に向けた環境構成の整備を行う為の「保育・教育研修会」（7月26日、27日）

②幼児～小学生を対象に実施する「夏休み講座『かけっこ教室』」（8月24日）

③「幼児教育の魅力とキャリア形成に関するシンポジウム」（11月10日）

④川西市食育フェアにおける「遊び×食育」を通じた幼児教育の魅力を伝える活動（12月15日）

⑤幼児教育の魅力を伝える動画の効果検証

⑥TikTok、YouTube ショートを使用した幼児教育の魅力発信

⑦SNS とイベント案内が一体化したチラシ作成と配布

これらの取り組みを通して、広く幼児～中高生や一般の方々、そして養成校生にも改めて幼児教育の魅力を伝えることで、幼児教育に対する興味・関心の裾野を広げることが出来るように取り組んだ。

## II. 調査研究の目的及び内容

### 1. 目的

大阪青山大学（以下、本学）は、1965年4月に吹田市千里ニュータウン青山台住区の造成時に開園した青山幼稚園を母体とし、1967年に開学した大阪青山女子短期大学（家政科・幼児教育科）の流れを汲んでいる。短期大学時代から通算すると、55年以上大阪の北摂地域を中心に、多くの幼稚園教諭等保育従事者を輩出している。一方、近年保育者養成校入学者数の減少や、養成校生の幼稚園教諭等保育従事者以外への就職、早期離職や幼児教育・保育職への再就職者数の少なさなどの理由から、就学前教育の担い手が不足し、その確保はこの北摂地域だけではなく我が国の多くの地域で喫緊の課題となっている。

この様な全国的かつ慢性的な幼稚園教諭等保育従事者の不足は、幼児教育がその後の教育の基礎を培うものであることを鑑みても、その質を担保する上でも看過できない事柄である。昨年度は幼児教育の現状改善に少しでも貢献する為、「幼児教育の魅力再発信」というテーマで本事業に取り組んだが、期

間の短さなどもあり十分な取り組みが出来たとは言えなかった。そこで、今年度は昨年度の事業における反省点を踏まえ「幼児教育の魅力を伝えたい！」をテーマに次の取り組みを行った。本学科が普段より取り組んでいる主な事業内容と今年度の事業で取り組んだ内容を記す（図1-1）。なお、今年度本事業で取り組んだ事柄を太字で示した。

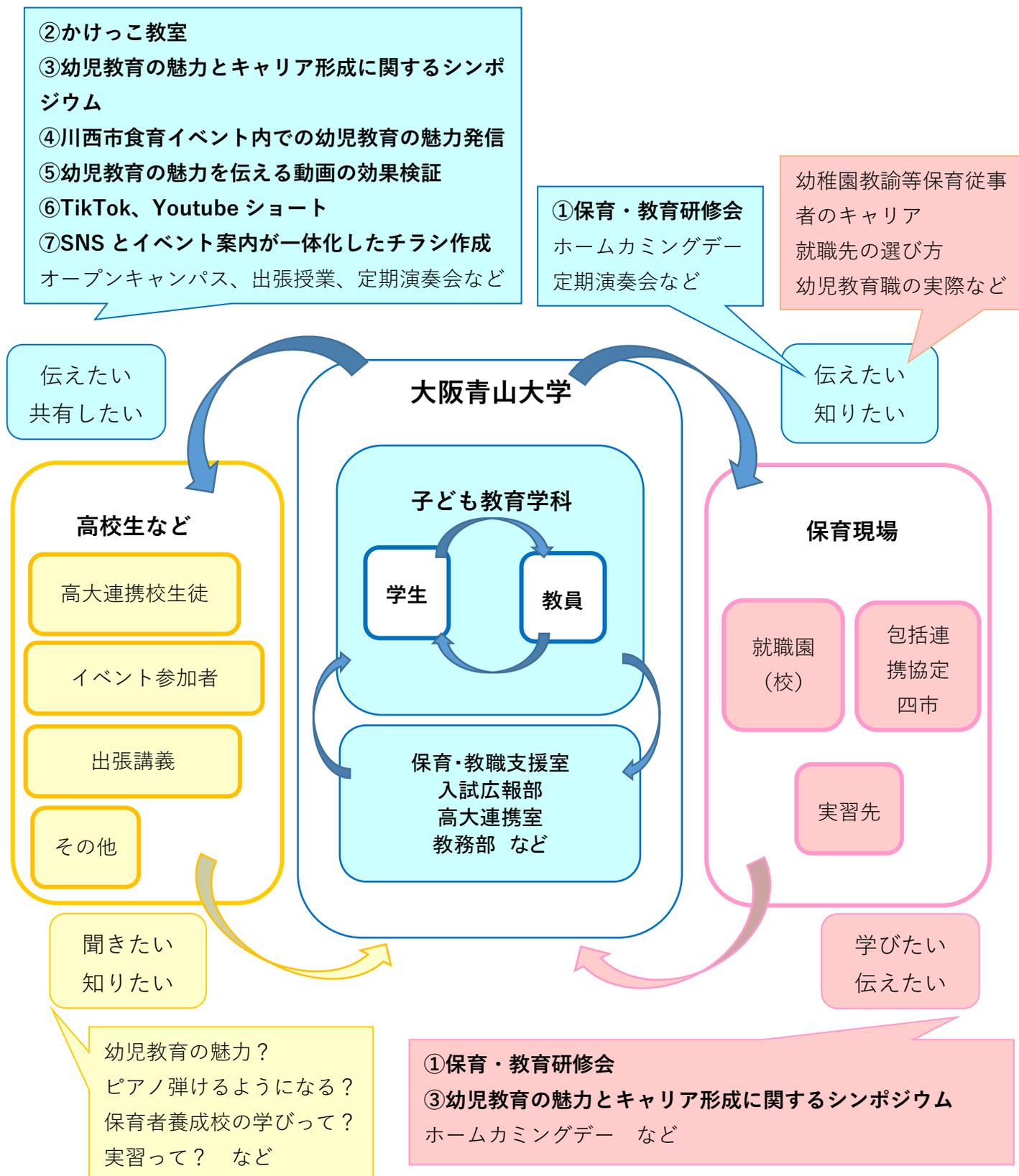


図1-1 大阪青山大学子ども教育学部で取り組んでいる幼児教育の魅力を伝える主な事業

## 2. 内容

本学では、以下の取り組みを行った。

### ①「保育・教育研修会」

○日時：令和6年7月26日（金）27日（土）\*両日とも10:30～16:10

\*昨年の参加者の意見をもとに、土日から金土開催に変更した。

○場所：大阪青山大学2号館801講義室

○対象：

・本学卒業生の内、教育職、保育職、栄養関係職等に就いている方（幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉関係、小学校、栄養関係等）

・本学との包括連携協定市（箕面市、池田市、川西市、豊中市）の保育・教育施設（栄養関係職含む）に勤務の方

・上記以外の教育職、保育職、栄養関係職などに就いている方

○内容

7月26日（金）

- ・ 集団づくり (講師：久田敏彦 10:30～12:00)
- ・ 子どもを取り巻く食の環境 (講師：蜂須賀のぞみ 13:00～14:30)
- ・ 小学校におけるこれからの英語教育 (講師：山口美穂 14:40～16:10)

7月27日（土）

- ・ 発達障害児の理解 (講師：高木典子 10:30～12:00)
- ・ 発達障害児と保護者対応 (講師：西堂直子 13:00～14:30)
- ・ 子ども虐待と保護者対応 (講師：戸松玲子 14:40～16:10)

### ②「夏休み講座『かけっこ教室』」

・ 日時：8月24日（日）(10:00～12:00)

・ 場所：大阪青山大学リズム室

・ 対象：幼児及び小学生

・ 内容：本学講師（村田トオル）及び養成校生が幼児・小学生と関わり、かけっこ（遊び）を通して幼児教育の魅力を発信する。

\*幼児教育の魅力をより広い対象に発信するために、幼児・小学生を対象とする取り組みを実施。

### ③「幼児教育の魅力とキャリア形成に関するシンポジウム（11月10日）」

・ 日時：11月10日（日）(12:15～13:30)

・ 場所：大阪青山大学4号館大講義室

・ 対象：養成校生、中学生、高校生、一般

・ 内容：現役の幼稚園教諭として活躍する大阪青山大学同窓生の4名の先生から、幼児教育の素晴らしさや幼稚園教諭のキャリア形成についてお話しいただくシンポジウムと、「幼児教育の魅力とキャリア形成について」とシンポジストと参加者による交流。

\*昨年の男性教諭の話も聞きたいという意見をもとに、男女各2名のシンポジストを依頼。

\*卒業後の年数が1年～13年と幅広い年代の同窓生に依頼。

\*学祭と同日開催とすることで、中高生がより参加しやすいような日程の設定。

#### ④川西市食育フェアにおける「遊び×食育」を通じた幼児教育の魅力を伝える活動

- ・日時：12月15日（日）（12:30～16:00）
- ・場所：キセラ川西
- ・対象：幼児、小学生、中学生、高校生を含む一般市民
- ・内容：「遊び×食育」を通じた幼児教育の魅力の発信

#### ⑤幼児教育の魅力を伝える動画の効果検証（アンケート実施）

- ・期間：9月～1月
- ・対象：大阪府下の高校生・養成校生
- ・内容：昨年作成した「幼稚園・保育園の一日」、「幼稚園教諭を目指す大学生の一日」、「幼稚園実習の一日」各映像に対するアンケート調査の実施と分析

#### ⑥ TikTok、YouTube ショートを使用した幼児教育の魅力発信

- ・期間：7月～1月
- ・内容：幼児教育の魅力を伝える SNS（TikTok、YouTube）の作成  
\*昨年度に引き続き、学生主体で企画・作成。今年度は YouTube ショートでも発信を行った。

#### ⑦ SNS とイベント案内が一体化したチラシ作成と配布

- ・対象：中学生、高校生、養成校生、高校教員等
- ・内容：SNS（TikTok と YouTube）とイベント案内の告知

### 3. 方法

取組①～⑤の効果検証として、参加者アンケートを実施した。データ収集の方法は各取り組みの内容に合わせて検討（紙式又はオンライン）した。なお、アンケートにおける倫理的配慮は次の通りである。

#### 本事業における倫理的配慮

調査への参加協力は任意であり、参加の拒否や中止は自由であることや、協力者本人に不利益が生じないことの説明、また個人が特定されることのないように無記名で実施すること、回答提出をもって調査への同意とみなすことをアンケート冒頭に記載、又は口頭で説明した。

取組⑥については、SNS へのアップ 1 週間後の視聴数などを取得し、より良い SNS における幼児教育魅力発信の内容について検討を行った。

### Ⅲ. 成果及び今後の課題

#### 1. 「保育・教育研修会」

##### 1-1. 成果

###### ① 趣旨

卒業生及び四市（箕面市・池田市・川西市・豊中市）連携協定先の幼稚園教諭等保育職従事者を対象に、現在の保育・教育上の諸課題の認識を高め、指導力向上を図る場を提供する。

###### ② テーマ

「保育・教育をめぐる社会的諸課題」

###### ③ 実施日時

令和6年7月26日（金）、27日（土）＊各日とも10:30～16:10の実施

###### ④ 実施場所

大阪青山大学 2号館801講義室

###### ⑤ 参加者数（申込者数）

全体：29名（32名）、うち両日申込者数3名

7月26日（金）：13名（13名）

- ・ 集団づくり : 4名（4名）
- ・ 子どもを取り巻く食の環境 : 6名（6名）
- ・ 小学校におけるこれからの英語教育 : 11名（11名）

7月27日（土）：19名（22名）

- ・ 発達障害児の理解 : 16名（17名）
- ・ 発達障害児と保護者対応 : 14名（17名）
- ・ 子ども虐待と保護者対応 : 12名（13名）

###### ⑥ 申し込み者 職種内訳

表 1-1 申込者数職種内訳

	小学校教諭	中学校教諭	幼稚園 保育所 認定こども園	児童福祉関係	在学生	その他	合計
卒業生 (子ども教育学科)	4		2	1		2	9
卒業生 (健康栄養学科)						2	2
四市 (箕面市、川西市、 池田市、豊中市)	3	3	6	1		1	14
その他	2				1	4	7
合計	9	3	8	2	1	9	32

申込者数の内訳（表1-1）や自由記述の職種より、卒業生の元幼稚園教諭等保育従事者があった。このことから、現在の幼児教育などの知見を伝えることで、幼児教育・保育職の再就職に繋がる可能性が伺えた。

## 1-2. アンケート結果

受付時にアンケート用紙を配布し、講座終了後受付にアンケートボックス留置し回収を行った。

### 評価基準

- 4：よい（十分満足した・十分成果を得られた）
- 3：だいたいよい（満足した・成果を得られた）
- 2：あまり十分でない（あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった）
- 1：不十分（満足しなかった・成果を得られなかった）

### ①保育・教育研修会の感想

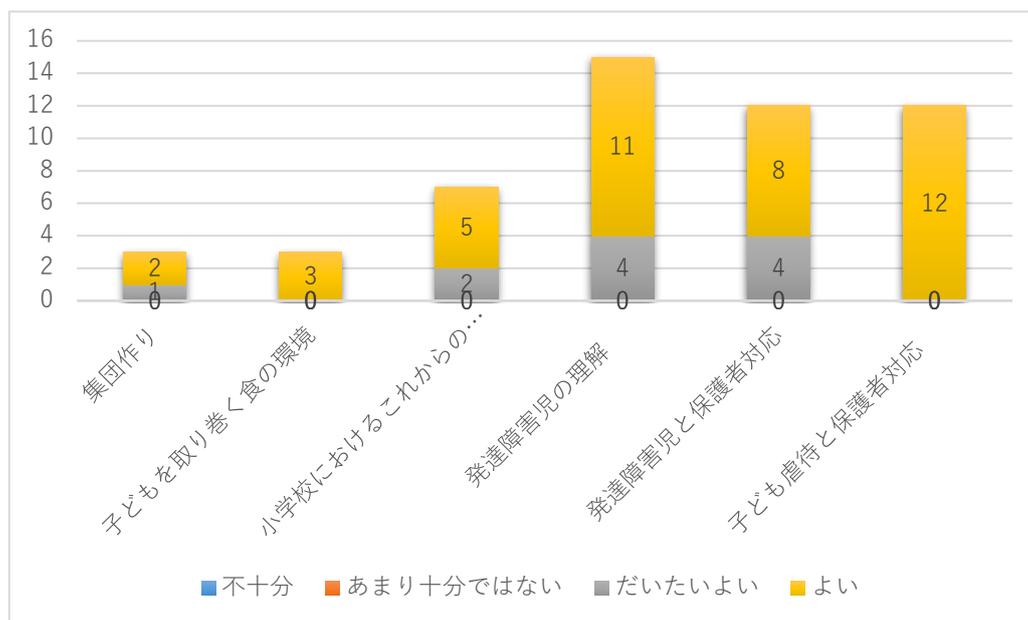


図1-1 保育・教育研修会の感想

各講座の感想は次の通りである。「子ども虐待と保護者対応」や「子どもを取り巻く食の環境」では「よい」が100%であった。また、「集団作り」では「よい」67%(2)、「だいたいよい」33%(1)、「小学校におけるこれからの英語教育」は「よい」71%(5)、「だいたいよい」29%(2)、「発達障害児の理解」は「よい」73%(11)、「だいたいよい」27%(4)、「発達障害児と保護者対応」は「よい」67%(8)、「だいたいよい」33%(4)であった。このことから、全ての講座において「よい」又は「だいたいよい」と回答を得ている。このことから、「保育・教育研修会」の満足度は高かったと言える。

## ②自由記述

表1-1 保育・教育研修会の自由記述

集団作り	元幼稚園教諭等保育従事者 子ども教育学科 卒業生	研修を受けるまで「集団」＝小学生や年長さんのイメージでしたが、保育の色んな場面に通ずる部分もあり、年齢問わず意識できるものだと感じました。指導についても、教師や保育士がリードするばかりでなく、子どもたち同士で関わり合えるようもっていく力が求められているのだと勉強になりました。ありがとうございました。
		実践的なもの（製作・運動・グループワーク）など取り入れても、参加者の幅が広がり、面白いかと思います。人数や内容に応じて、教室も違うと雰囲気が変わりそうに感じました。
子どもを取り巻く食の環境	健康栄養学科 卒業生	本日はとても興味深いお話を聞かせていただき、ありがとうございました。 私も手作りにとらわれていることが多かったのですが、様々なデータから手作りだけではなく、外食・中食とどう上手く付き合っていくのかとても大切だと感じました。 またアレルギーでは、私の認識とは大きく異なっており、経皮感作の重要性にとっても驚きました。アトピーのある子にアレルギーが多いのも納得しました。子どもの保湿、頑張ります。最新のデータや施策教えていただき、大変勉強になりました。
	健康栄養学科 卒業生	最新の情報が知れて良かったです。他業種の方の話が聞けて、とても勉強になりました。ありがとうございました。
	職種等記載なし	親（保護者）の知識が子どもに直接つながるという所に勉強させられました。 平日は給食に頼っているため、自宅に帰ってからはまあ食べない物もあっても良いかと諦める部分もありましたが、やはり給食のない日の摂取量・不足部分のグラフを見ると、自宅での野菜やカルシウムの摂取方法も考えないといけないなと思いました。 下の子が冬場や夏場でも身体の一部が乾燥したり敏感になったりすることがあるため、経口よりもスキンケアが大切ということに学ばされました。
小学校におけるこれからの英語教育	小学校教員 英語リーダー 1～6年生	今日はありがとうございました。実際にワークショップ体験したり、ビデオを見せていただいたり、とても分かりやすかったです。
	小学校教員 6年生	夏休みになって授業の準備をしているのですが、ちょうど知りたかったことが分かりました。外国語が嫌いではありませんが、英会話が得意ではないので、Small Talk はなかなか難しく、担任なので1学期は準備がゆっくり出来ませんでした。2学期は学んだことを取り入れながら、少しずつやっていこうと思います。研修を受ける人が少なすぎて、場所が広いので、ちょっと落ち着かなかったです。
	子ども教育学科 学生	実際に体験してとても良かったです。
	健康栄養学科 卒業生	今の英語教育が知れて勉強になりました。自分の時代との違いに驚きます。
	職種等記載なし	子どもにどのように英語を教えたなら良いのか、聞き流しなどよく聞きますが、まずはゲーム活動で「りんご」が「Apple」と認識できてから次に進むことが大事であるということがよく分かりました。実際の映像も見ながらの講演だったので、内容についてもよく分かりました。ありがとうございました。
発達障害児の理解	幼稚園 養護教諭	発達障害のことを、昔～今と変わってきたことを教えていただいたので分かりやすかったです。子どもが苦手なことを、何に困っているかを知って解決したいと思いました。色んな子どもがいると改めて思いました。ありがとうございました。
	保育園 園長	園に戻り、再度研修内容を生かし、保育を考えたいと思いました。振り返りとこれからの道筋（目標・目的）が見えたように思いました。色々な角度から考えたいと思います。ありがとうございました。
	幼稚園 特別支援加配教諭 5歳児	夏休みに研修会があるのはありがたいです。支援のことをもっと勉強したいので、こういう研修会をまたお願いします。
	保育士 2歳児	発達障害の子どもの特性について理解しているつもりでしたが、研修でお話を聞かせていただき、再確認し、対応や特性も分かりやすかったです。ありがとうございました。
	幼小中高大 教員	資料とパワーポイントがリンクしていなかったことが分かりにくかった。発表の内容はとても良かった。
発達障害児と保護者対応	放課後等デイサービス・児童発達支援代表取締役 保育士	子どもたちやその保護者と関わっていくうえで、今日のお話はすごくためになりました。
	中学校教員 通級	保護者の障害受容は、中学生の親もまた頭では理解されているものの、大いに不安に揺れておられる感じがあります。
	小学校 講師 音楽専科	7月中の平日はプール指導があり、参加できませんでした。できれば8月前半だと平日も参加できるので嬉しいです。小学校プログラムも参加したかったです。学びの機会をくださり、ありがとうございました。来年度も楽しみにしています。
子ども虐待と保護者対応	中学校教員 通級	児童虐待の問題は、幼少期からの積み重ねが今に繋がっていることを、本日の講義を通して改めて認識し、深めることができた研修となりました。
	看護師・保育士 放課後等 デイサービススタッフ 2 ～16歳	虐待問題は、特に問題になっていることで聞けて良かった。最近では、虐待による影響で発達障がいに近い状態の子どもも増えつつあるため、対応が難しい。違いや対応の注意点なども分かれば、詳しく聞きたいと思った。
	保育士・幼稚園教諭 教育委員会事務局 保育幼児教育センター	とても分かりやすいご講演でした。現場で感じていたことも、言葉にいただいた気持ちです。いつも「今保育所に来ている間だけでも『ああ、たのしかった』を感じてもらおう」「この子の「信頼できる大人」になろう」と思ってやってきたし、伝えてきました。よかったです。現場にも伝えたいと思います。ありがとうございました。

	元幼稚園教諭等保育従事者 子ども教育学科 卒業生	改めて虐待について学び、新たな知識を得たり、学生時代の学びを振り返ったりすることが出来ました。保育現場で働いていた時の子どもや保護者の姿も思い返し、学生時代とはまた違った視点で振り返ることもでき、対応など改めて考えるきっかけになりました。
		保育・教育の現場で働く友人たちにも伝えたり、自分の身の回りでも子どもとの関わりで気に掛けたりしていきたいです。ありがとうございました。
		前の講義との間の時間がもう少しあると、終了まで扉前で待つ時間も減り、講義を受けていた方はゆっくりとアンケートの記入や講師の方への質問が出来るのかなと思いました。
複数講義 (発達障害児の理解、発達障害児と保護者対応、子ども虐待と保護者対応) 受講者	保育士 主任 フリー	専門的なことを学べる機会をありがとうございました。
	保育教諭	今年も研修会をしていただき、ありがとうございました。話の中で、職場での様子をイメージしたり「そういえばこのことも…」と思ったりすることがたくさんありました。少しでも研修内容を保育に活用していきたいです。
	小学校 介助員 1～6年生	日々小学校で関わっている子ども達の姿を思い浮かべてイメージできることも多く、ストンと自分の中で強く感じるものがありました。通して感じたことは、発達障害というのは特別なことではなく、その時その時でおかれた環境が大きく関わるのではないかと。ストレスが多い時に出る心や体の反応も含めて、自分が感じていることを的確に言葉や原因などを教えていただけて、今後に生かしていきたいです。ありがとうございました。
	子ども教育学科 学生	保護者対応は実習ではないので、具体的に学べてよかったです。発達障がいをもっている保護者と虐待の保護者では全く違うので、活かして個別対応をしていきたいです。
複数講義受講者 (発達障害児の理解、発達障害児と保護者対応) を受けての感想	中学校教員 支援学級担任 1～3年生	本日はありがとうございました。教員生活は長いですが、支援学級についてはまだ経験が浅く、分からないことばかりです。障がいも個性があり様々。長い人生の中で、私たちが関わるのは3年間、でも心も体も大きく成長し、義務教育を終えて、次のステップを考えなければならない時期でもあります。ひとりひとりに支援担として何が出来るのか、どういう支援をすべきなのか、を成長・変化する子どもたちと共に、悩みながら過ごす日々です。26日も参加させていただきありがとうございました。クラブ活動の試合があり、残念でした。また機会があれば参加させていただきたいです。ありがとうございました。
複数講義受講者 (発達障害児の理解、子ども虐待と保護者対応)	小学校 低学年指導 1年生	本日は参加させていただき、ありがとうございます。
		数十年ぶりに大学の講義を受けましたが、現在私がしている仕事に直結している事なので具体的なイメージをもって聞くことができ、とても参考になり勉強になりました。ありがとうございました。もう一度勉強してみたいです。
複数講義 (発達障害児と保護者対応、子ども虐待と保護者対応) 受講者	小学校教諭 6年生	昨年度に引き続いて、ありがとうございました。
		2コマの研修を受け、これまでに関わってきた児童・保護者対応が思い浮かぶと同時に、今年度の受け持つ児童・保護者にこれからどう関わっていくのかも考えることができました。また、校内でも、本日の内容を共有しながら、指導していけたらと思います。
		次年度は、学力や人権学習(ジェンダー平等や部落問題)につながる研修もあればいいなと思いました。グループワーク等で、色々な先生方の話も聞いてみたいと思いました。

自由記述の回答から「園に戻り、再度研修内容を生かし、保育を考えたいと思いました」、「現場で感じていたことも、言葉にさせていただいた気持ちです」等から、普段の幼児教育・保育と結びつく研修内容であったことが分かる。また、「来年度も楽しみにしています」、「講義を通して改めて認識し、深めることができた研修となりました」など肯定的な感想が多く見られ、学びの時となった事が伺えた。

### 1-3. 今後の課題

- ・日時の設定については、昨年度の意見(平日は仕事を休めない、子どもの預け先がないため休日は参加が難しい)を参考に変更したが、さらなる検討の余地が残された。
- ・講座内容については、幼児教育・保育従事者へのフォローアップという観点から、その時々に関心が高い内容を引き続き設定していく必要がある。
- ・今年度まだ2回目の取組みであり、卒業生への周知が不十分である。一方で昨年から連続しての参加者もあり、回を重ねることで、幼稚園教諭等保育従事者に対するより良い研修の機会として、また、幼児教育・保育を学び直す機会として定着を図りたい。

## 2. かけっこ教室

### 2-1. 成果

#### ① 実施日時

8月24日（土）10:30～12:00

#### ② 実施場所

大阪青山大学 リズム室

#### ③ 参加者

小学生13名、未就学児4名、保護者12名の計29名

養成校生：4名

#### ④ 実施内容

養成校生が小学生・未就学児と関わる中で幼児教育の魅力を再確認する。

（かけっこ、サーキット遊び、しっぽとり等）

### 2-2. アンケート結果

#### ① 講座の内容

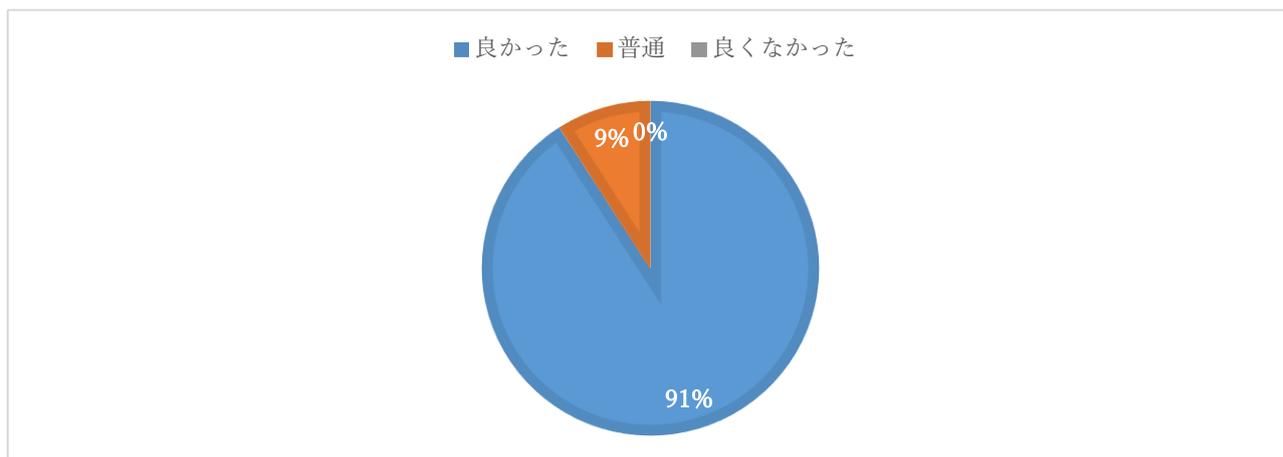


図2-1 講座の内容

講座の内容について「良かった」91%(10)、「どちらとも言えない」9%(1)であった。また、保護者の90%以上が「良かった」と回答したことから（図2-1）、幼児及び小学生の保護者に遊びを通した幼児教育の魅力を伝えるきっかけになった。

## ②イベント情報の取得方法

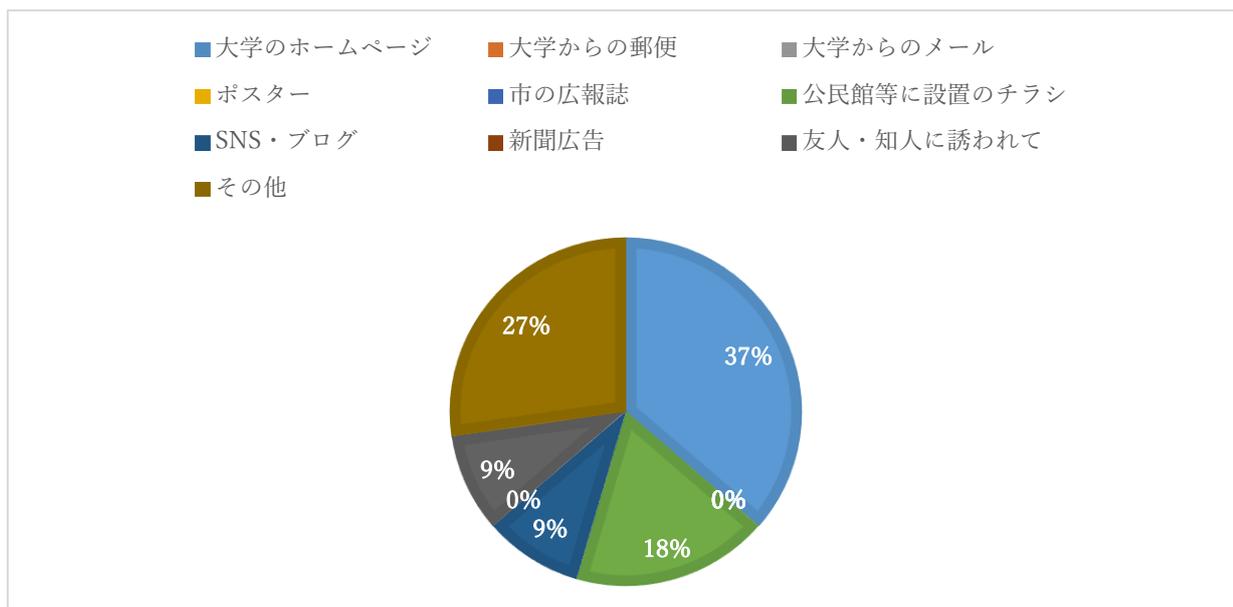


図 2-2 イベント情報の取得方法

幼児や小学生の保護者のイベント情報取得方法は、「大学のホームページ」37%(4)、「公民館設置のチラシ」20%(2)、「SNS・ブログ」9%(1)、「友人・知人に誘われて」9%(1)であった。「その他」27%(3)の詳細は「各大学の情報サイト」、「JS 日本の学校」、「検索エンジン」であった(図2-2)。

## ③イベントに参加しやすい曜日

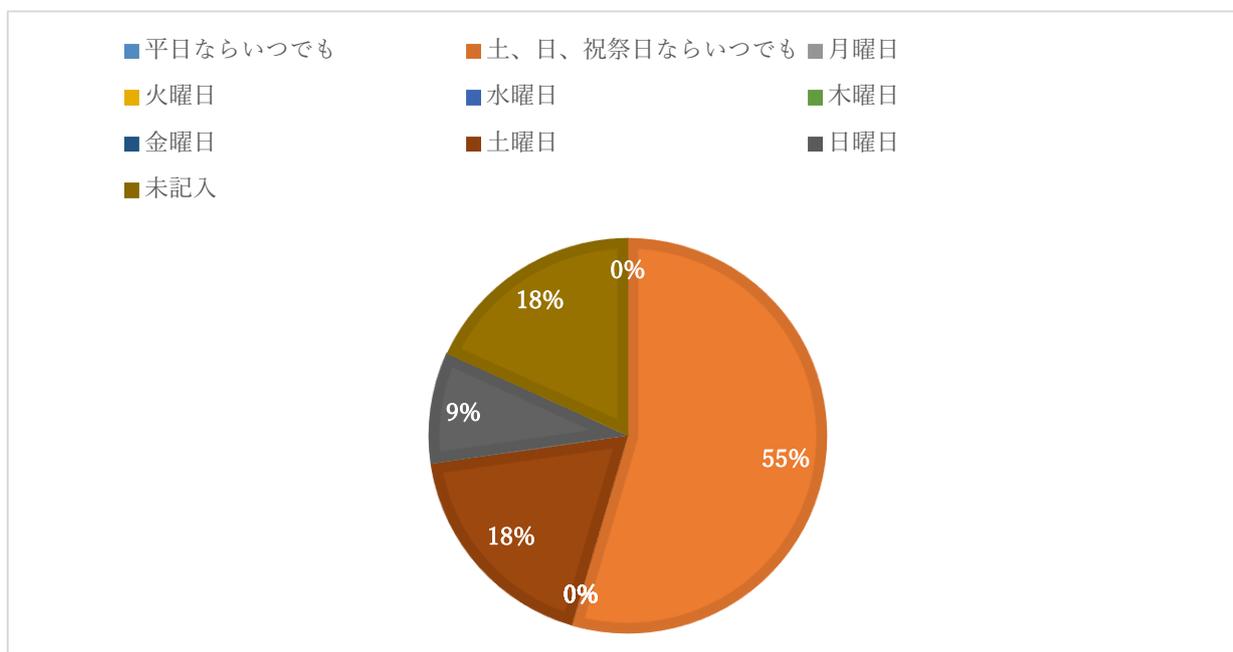


図 2-3 イベントに参加しやすい曜日

イベントに参加しやすい曜日として、小学校が休みの土・日・祝日が多かったことから、小学生を対象としたイベントは、土・日・祝日にすることが良いと分かった。

表2-1 「かけっこ教室」に参加した保護者の自由記述

色々な体の動かし方を体験できてよかった。楽しく参加できました。
先生と学生さんが明るく子ども達も楽しく体験しており参加して良かったです。ありがとうございました。
暑さで中々全力で走る機会も少ないので良かったです。
1時間半集中できるかと心配していましたが、講座内容は終始たのしんでおり、飽きる間もない感じでした！大学生のお兄さん、お姉さんも先生も、子供目線で話してくださっていて、子供も早くなじめておりました。夏休みに良い経験をさせて頂きありがとうございました。
本日、ありがとうございます。家では出来ない子供とのコミュニケーションがとれました。今回の参加も、走るの早い方ですがさらに早くなりたいと子供が言いましたので、参加させて頂きました。子供の成長に間違いなく貢献して頂き感謝しかありません。次回あれば参加したいです。
～正しい走り方を知ろう～というので、正しいフォーム正しい走り方を受けれると参加しましたが、レクリエーションで終わった気がいたします。子どもたちが楽しめたのは良かったと思います。腕の振り方やスタートダッシュ等のフォームが学べたらもっと良かったかなと思います。普段関わる事が出来ない大学生の方たちとかかわれたことは良かったです。楽しそうに参加していたので、参加できて良かったです。ありがとうございました。
年長児には少し運動量が多かったようです。でも、楽しかったーと言っていました。
子どもが楽しそうに参加している様子を見て、親も楽しく過ごせました。先生や学生の皆さんが明るく接して下さっており、安心しました。今後も子どもを対象にした講座を増やして頂けると嬉しいです。ご準備から開催までご尽力いただきありがとうございました。
幼い子向けの講座かなと感じた。学年（年齢）をもっとせばめて、それぞれの対象に合わせた方が良いように感じる。
未記入
子どもが楽しく参加できて良かったです。

保護者の自由記述のアンケート「1時間半集中できるかと心配していましたが、講座内容は終始たのしんでおり、飽きる間もない感じでした！大学生のお兄さん、お姉さんも先生も、子供目線で話してくださっていて、子供も早くなじめておりました」や「普段関わる事が出来ない大学生の方たちとかかわれたことは良かったです」にあるように、幼児教育者を目指す学生と子どもとの関わりは、保護者にとって好評であった。このことから、養成校生が幼児と関わるイベントを行うことは保護者に幼児教育の魅力を伝えるきっかけになると考えられる。

表2-2 「かけっこ教室」を実施した養成校生の自由記述

はじめは私たちも子どもたちも緊張していたけど、時間が経つにつれ慣れてきて笑顔が増えて楽しそうで良かったです。
授業内では体験することのできない、子どもと直接触れ合うことができ、実習前のとても良い経験になりました。また、しっぽとりなど、一緒に遊ぶこともでき、とても楽しかったです。
小学校ではなかなか関わりのない就学前の小さな子どもたちと、年齢を問わず交流が行えたことは、良い刺激にはなったのではないかと思います。
将来の役にたったしとても楽しかったです

「かけっこ教室」を実施した実習前の養成校生の自由記述「授業内では体験することのできない、子どもと直接触れ合うことができ、実習前のとても良い経験になりました」、実習前に自分たちで遊びを考え子どもと関わる事で、養成校生の幼児教育に対するモチベーションは高まると言える。

表 2 - 3 養成校生が考える大学入学前の人に幼児教育の魅力を伝える方法

幼児と一緒に遊ぶ中で何かを手助けする経験をして、その楽しさを感じてもらうことが魅力を伝える1つの手だと感じました。
子どもとの活動を通して幼児教育に携わることの楽しさを伝える。
年齢を問わずみんなで遊べるような機会を定期的にとたくさん行えたらいいんじゃないかと思います。私が幼児教育に興味を持ったきっかけも小さな子どもたちとの交流(遊び)だったので、関わって思い出を共有する事が第一歩になるのではと考えました。
SNSなどを使い宣伝するのいいと思う

「幼児と一緒に遊ぶ中で何かを手助けする経験をして、その楽しさを感じてもらうことが魅力を伝える1つの手だと感じました」から、養成校入学前の人に幼児教育の魅力を伝える方法として、養成校生が考えた活動を養成校入学前の生徒と幼児と一緒にやって関わる経験が有効であると考えられる。

表 2 - 4 大学入学前の人に幼児教育の魅力を伝える具体的な活動について

ドッジボールなど、小さい子には手加減するといった配慮が意識しやすい活動。
子どもと一緒に運動遊びを体験
ワクワクする遊びをみんなでしよう！
TikTok配信

養成校生と養成校生入学前の生徒と一緒に体を動かしたり、活動したりするイベントは、実習前の養成校生が、幼児教育の魅力を再確認する方法として有用である。

### 2 - 3. 今後の課題

保護者の自由記述(表 2 - 1)に「学年(年齢)をもっとせばめて、それぞれの対象に合わせた方が良く感じる」とあることから、幼児・小学生を対象としたイベント実施時の対象学年を検討することが必要である。

### 3. シンポジウム「幼児教育の魅力とキャリア形成について」

#### 3-1. 成果

##### ① 実施日時

2024年11月10日（日） 12:15～13:30

##### ② 参加者数 46名

アンケート記入者数 36名（回収率78%）

アンケート記入者の内訳

高校生1名、養成校学生（本学科）32名、付き添い1名、保育・教育関係者1名、その他1名

##### ③ 実施場所

大阪青山大学4号館6階大講義室

##### ④ 実施内容

大学祭と同日開催のプレオープンキャンパス内で、幼稚園教諭等保育従事者を目指す在学生、プレオープンキャンパスに参加の中高生及びその保護者を対象に、シンポジウム『幼児教育の魅力とキャリア形成』と参加者間の交流を行った。なお、シンポジストとして、現役幼稚園教諭の本学卒業生4名を講師として招いた。

#### 3-2. アンケート結果

##### ① シンポジウムを知ったきっかけ

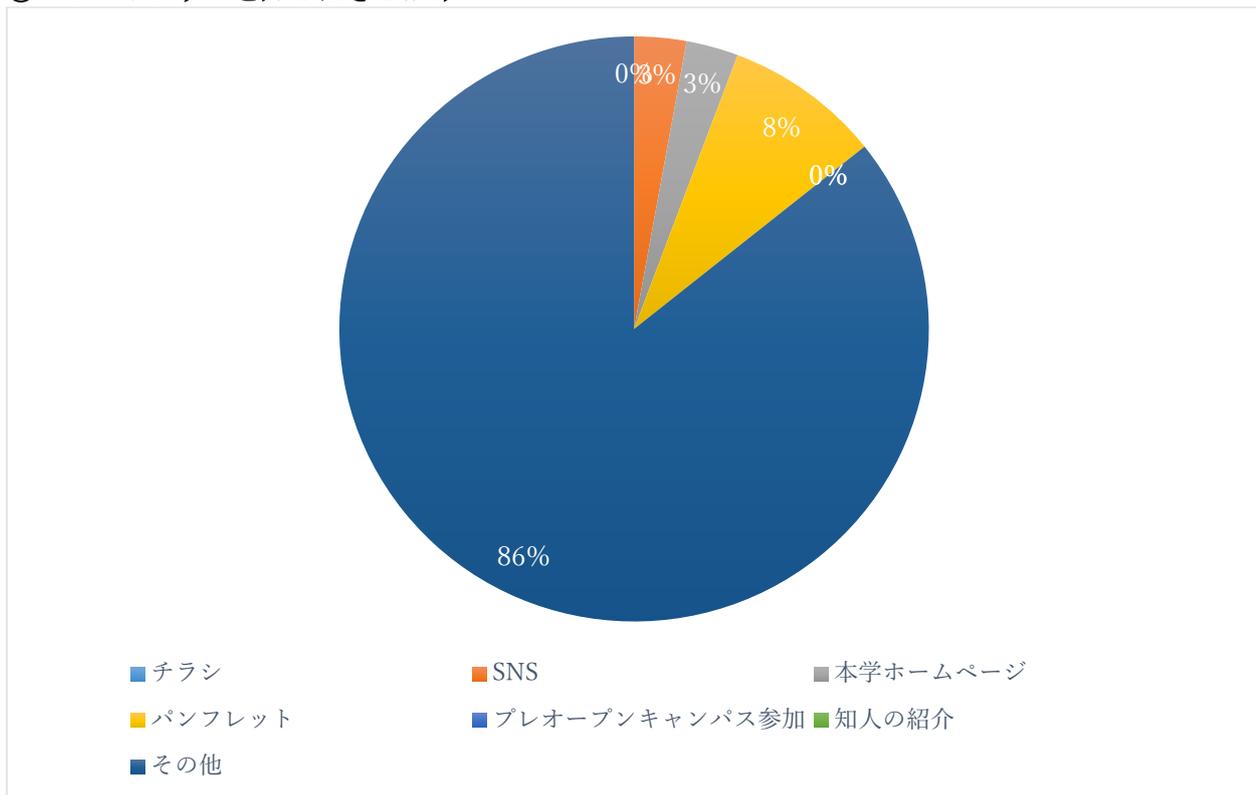


図3-1 シンポジウムを知ったきっかけ

シンポジウムを知ったきっかけは、未回答2を除き、大学祭のパンフレット(3)、SNS(1)、本学ホームページ(1)、その他(30)であった。その他とは、「授業、職員の勧めを受けて、子育て支援室の担当の先生から話を聞いて」である。

## ② シンポジウムの感想

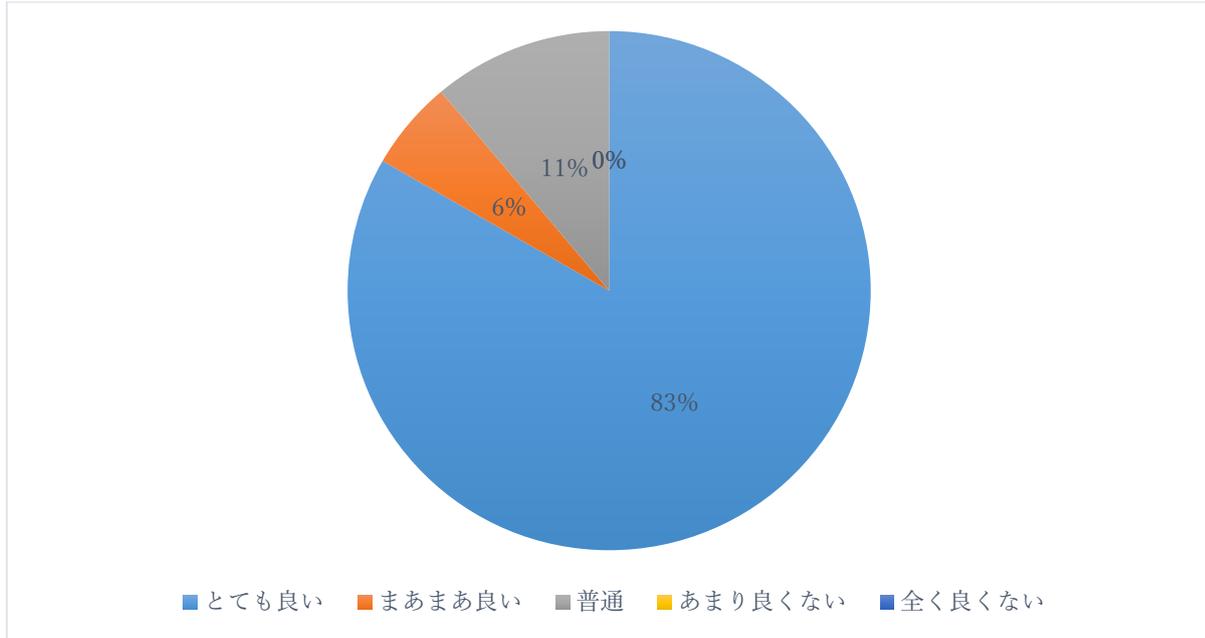


図3-2 シンポジウムの感想

シンポジウムと交流会の感想は83% (30) の者が「とても良い」と答え、「まあまあ良い」と合わせると、約90%の参加者から「良かった」という回答を得た。このことから、今回の企画は、参加者にとって満足が出来るものであったと言える。

## ③ シンポジウムの時間

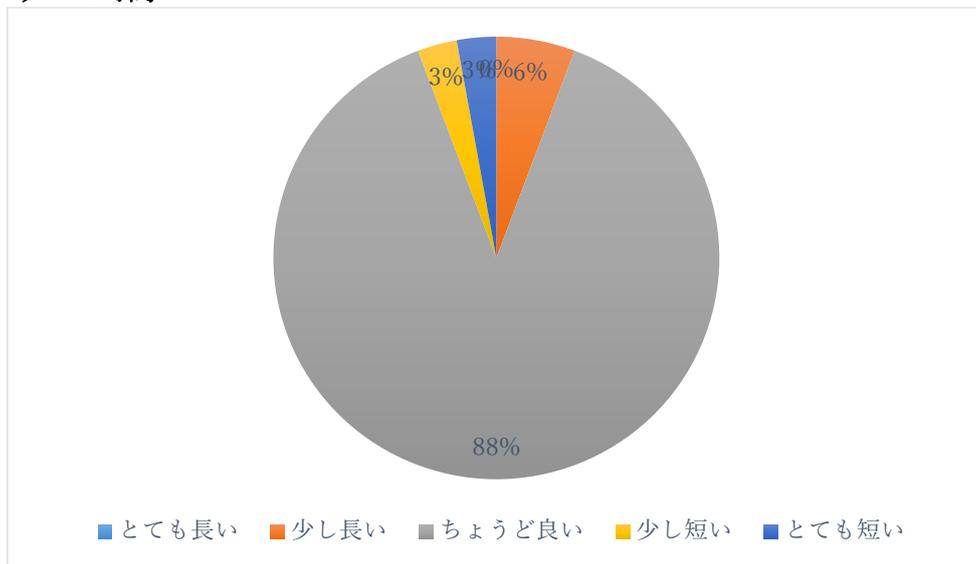


図3-3 シンポジウムの時間

シンポジウムの時間の長さは、未回答1を除き、「とても長い」(0)、「少し長い」(2)、「ちょうど良い」(31)、「少し短い」(1)、「とても短い」(1)であった。従って、シンポジストの講話約40分、交流約35分のプログラムは妥当であったと言える。

#### ④ シンポジウム参加前後の幼児教育魅力の変化

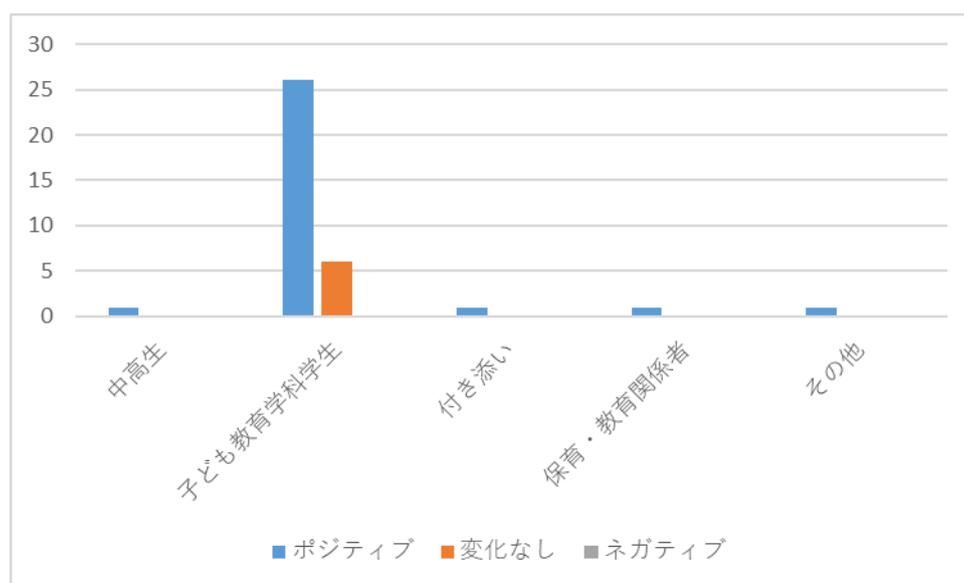


図3-4 シンポジウム参加前後の幼児教育魅力の変化

シンポジウム参加前後で、幼児教育の魅力が「ポジティブ」30(83%)、「変化なし」6(17%)、「ネガティブ」0%であった。「ポジティブ」と答えた者の内訳は、中高生、付き添い、保育・教育関係者、その他が(1)、子ども教育学科学生(26)であり、変化なしの内訳は子ども教育学科の学生(6)であった。このことより、現役の幼稚園教諭の講話を聴いたり交流を行ったりすることで、幼児教育の魅力はポジティブになると言える。

表3-1 シンポジウム参加前後の幼児教育魅力変化の自由記述

	幼児教育のイメージ (シンポジウム前)	シンポジウム後の変化	シンポジウム後の変化の理由
中高生	・人手不足 ・低賃金	ポジティブ	父親育休のことを知りたくて、よく知れたから
子ども教育学科学生	これから生きていくうえで必要なことを学ぶ	ポジティブ	大変なこともあるけれど、その分やりがいがあると話していたから。
子ども教育学科学生	子どもがかわいいが少し大変	ポジティブ	いい仕事と思えた
子ども教育学科学生	幼児の心身の成長・発達を支える	ポジティブ	大変な事よりも魅力の力の方が大きいと思った。
子ども教育学科学生	子どもと寄り添い関わりながら、子どもの成長、発達を支援する	ポジティブ	働く上での心構えや働く魅力を知れて良かった
子ども教育学科学生	未回答	ポジティブ	先生の実際の話聞いた
子ども教育学科学生	・安月給 ・やりがいのある仕事	ポジティブ	楽しそうに話して下さる
子ども教育学科学生	子どもと関わる	ポジティブ	普段聞けないような話を聞いたから
子ども教育学科学生	・生活する上で必要な基本を身に付ける場所 ・子ども同士でコミュニケーションをとる場所	ポジティブ	失敗しても学びがあるように話をされていたから
子ども教育学科学生	・保育士になるために様々なスキルを身に付ける場	ポジティブ	給料の話などしっかり聞いた
子ども教育学科学生	未回答	ポジティブ	未回答
子ども教育学科学生	未回答	ポジティブ	自分も頑張ろうと思えた
子ども教育学科学生	・子どもを見守りながら援助する	ポジティブ	実際に働いている方からのお話がポジティブなものが多かったため
子ども教育学科学生	・忙しくて大変	ポジティブ	育児がとれることを知れて良かった
子ども教育学科学生	・歌や運動をのびのびとする	ポジティブ	育休の話など今後ありうるかもしれない話を聞いたから
子ども教育学科学生	・男性が少ないけど働きやすい	ポジティブ	育児休暇への考え方が変わっていていると感じた

	幼児教育のイメージ（シンポジウム前）	シンポジウム後の変化	シンポジウム後の変化の理由
子ども教育学科学生	・保護者の代わりとなって責任をもって子どもを預かる ・子どもに寄り添う	ポジティブ	実際の生の声を聴けて、とにかくやりがいがあること、楽しい、子どもがかわいいと思えるということ、4名通して知れたから
子ども教育学科学生	未回答	ポジティブ	子どもの成長を見れる
子ども教育学科学生	・遊び+学習での生活が大切 ・子どもより保護者との関わり難しそう	ポジティブ	長く勤める利点を知った マイナスなこともあるけれど、嬉しさや達成感があることを再確認できた
子ども教育学科学生	・子どもの発達段階を踏まえて、一人一人に応じた関わりを行い、子どもらしさを十分に表現できるように、援助し寄り添っていくこと	ポジティブ	子どもからもらえるパワーについてより知ることができた
子ども教育学科学生	・子どもの成長を援助する	ポジティブ	子どもの成長を見たいと思った
子ども教育学科学生	・私の幼児教育のイメージは、子どもの成長を支え、のびのび育つこと	ポジティブ	園によって変わると思うが、乗り越えられることが多いことが分かったのでポジティブになりました
子ども教育学科学生	・遊びの延長線で学びがある ・運動会の規模が大きい ・小学校就学前の準備 ・表現遊び	ポジティブ	より先生になりたいと思った
子ども教育学科学生	・子ども達と一緒に遊びを通して楽しみ学ぶこと	ポジティブ	大変なことも子どもたちと一緒に乗り越えられるということが話を聞いて分かった
子ども教育学科学生	・音楽 ・玩具 ・笑顔	ポジティブ	暗いことばかりでなく、明るい一面もあるのが分かった
子ども教育学科学生	・仕事量は多いけど、子どもや保護者との信頼関係を築きながら保育に取り組む	ポジティブ	・楽しそうに話す先生方の話を聞けたから ・先生方への質問や交流が楽しかった
子ども教育学科学生	・子どもと関わる事 ・重要な時期	ポジティブ	育休を取れることを知れてよかった
付き添い	・人手が足りていない ・低賃金	ポジティブ	歴の長さに関わらず、子どもの成長の嬉しさや達成感、何年経っても感じる事ができるんだなと思ったから
保育・教育関係者	・小学校就学までに身に付けておきたい力を身に付ける為の教育 ・集団生活を行う為に大切なきまりやルールを知る	ポジティブ	自分がまだ幼児教育について学びきれていないため
その他	・子どもとも大人とも向き合う機会 ・体力と精神力と笑顔が大事な素敵なお仕事	ポジティブ	学生の皆さんも聞きながら聞かれていて、大変参考になったかと思えます
子ども教育学科学生	・音楽や工作を使って、発達年齢に合わせた活動をしている	変化なし	私が思っていた部分で大体一緒だったから
子ども教育学科学生	・遊びなどを通して新しい学びをする	変化なし	想像から大きくかけ離れたものがなかった
子ども教育学科学生	・子どもの成長に関わる大事なこと	変化なし	知れたことも沢山あったけど不安な気持ちは変わらなかった
子ども教育学科学生	・笑顔のあふれる ・子供の成長を見守る	変化なし	やはり幼児教育は大変なこと以上の楽しいことがあるということが分かった為
子ども教育学科学生	・昼には終わるけれど、その後の準備や片付けが大変	変化なし	未回答
子ども教育学科学生	・子どもの将来を見据えて、子どもと関わった教育をしていく	変化なし	園によるから

シンポジウム前にマイナスイメージ（人手が足りていない、低賃金）を持っていた高校生や養成校生が、ポジティブイメージ（父親育休のことを知りたくて知れたから、子どもの成長のうれしさや達成感、何年たっても感じる事が出来るんだなと思ったから）に変化したことから、高校生や養成校の学生が、現役幼稚園教諭から幼児教育の魅力やキャリアについての話を聴き、その後、交流を行うことは、高校生や養成校生に幼児教育の魅力を伝える為に有効な方法であることが分かる。

また、養成校生の自由記述「長く勤める利点を知った」、「働く上での心構えや働く魅力を知れて良かった」、「育休の話など今後ありうるかもしれない話を聞けたから」、「大変なことも子どもたちと一緒に乗り越えられるということが話を聞いて分かった」から、幼児教育・保育職就職後の自身のキャリアについて考えるきっかけになった事が分かった。

⑤ シンポジウム前後での幼稚園教諭への憧れの変化

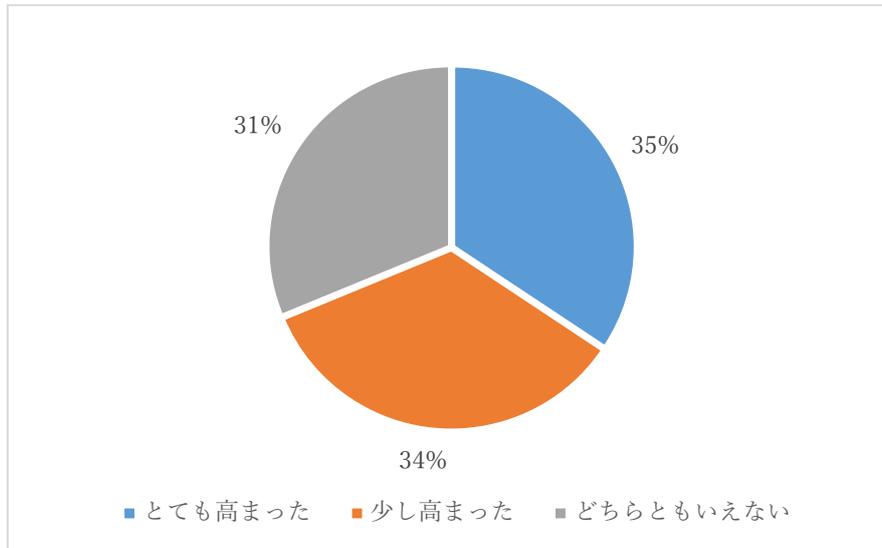


図 3-5 幼稚園教諭への憧れ

シンポジウム前後で幼稚園教諭への憧れの変化について聞いたところ、「とても高まった」は39%で内訳は、中高生(1)、子ども教育学科学生(11)、保育・教育関係者(1)、その他(1)であった。「少し高まった」は30.5%で全て子ども教育学科の学生(11)であった。「どちらともいえない」は30.5%で子ども教育学科学生(10)、付き添い(1)であった。「とても高まった」と「少し高まった」を合わせると、約70%の者が幼稚園教諭への憧れが高まった。このことから、現役の幼稚園教諭の講話を聴き交流を行うことは、幼稚園教諭への憧れが高まるきっかけになると言える。

⑥ シンポジウム前後での幼稚園教諭のイメージと憧れ変化の理由（自由記述）

表 3-2 シンポジウム前後での幼稚園教諭のイメージと憧れ変化の理由（自由記述）

	幼稚園教諭のイメージ	幼稚園教諭への憧れ	幼稚園教諭への憧れの変化についての理由
中高生	一人一人と向き合う、子どもを大切にす、ほめてくれたり怒ってくれる	とても高まった	元々保育士を目指していたが、実の声で良さを聞いて、さらに夢が強くなった
子ども教育学科学生	元気・明るい・優しい	とても高まった	楽しいことや、やりがいをもっと話されていたから
子ども教育学科学生	やさしい	とても高まった	未回答
子ども教育学科学生	明るい、いつも見守っている、楽しそう	とても高まった	話されている先生方が楽しそうだった
子ども教育学科学生	子どもの様子を見ながら、子どものやりたいという気持ちに寄り添った活動を行ったり子どもの成長、発達に合わせた支援をする。	とても高まった	子どもの成長を見て一緒に成長することができる職業だと思ったため
子ども教育学科学生	明るくて元気なイメージ	とても高まった	話がとても楽しかった
子ども教育学科学生	やさしい、ピアノ多い、大変	とても高まった	未来が見えた
子ども教育学科学生	楽しく子どもと遊ぶ	とても高まった	子どもと関わることの楽しさを改めて考えることができた
子ども教育学科学生	クラスの子ども一人一人の特性を捉え、季節に応じた活動を取り入れ、日常の何気ない言葉や動作から子どもにとって最も良い園生活を行えるように日々工夫している	とても高まった	実際に現場で働く先生方から、楽しいという生の声を聴けたから
子ども教育学科学生	大変、日案とか考えて行動していてすごい臨機応変に対応できる	とても高まった	楽しそうだった

子ども教育学科学生	幼稚園の先生のイメージは、優しく時に厳しく子どもに寄り添い、仲間や保護者からの信頼を得る。また、子どもの成長に関わる。	とても高まった	自分のキャリアと共に続けられるので、良いなと思いました
子ども教育学科学生	優しい、明るい、まじめ、笑顔	とても高まった	やりがいなど聞くことができて、やっぱり幼稚園で働きたいと思った
保育・教育関係者	集団生活の中で子ども達に手本を見せてる。子どもたちと日常生活を楽しんでいる。	とても高まった	子どもの魅力について知らないことを知れた為
その他	子供の成長を心から喜んでくれる素敵な方々、やさしい、あたたかい人と関わる仕事の為、悩み事もうれしいことも人一倍多そう	とても高まった	今では育休等の制度も整ってきており、安心感を抱いた
子ども教育学科学生	よく笑う 挨拶をしっかり交わしてくれる 一人一人に合わせて教育をしている	少し高まった	給料上げてほしい、魅力あるから
子ども教育学科学生	優しく明るく元気なイメージ	少し高まった	保育園志望だが、幼稚園での働き方など詳しく聞けて良かった
子ども教育学科学生	未回答	少し高まった	未回答
子ども教育学科学生	未回答	少し高まった	未回答
子ども教育学科学生	笑顔 なんでもやってくれる	少し高まった	やっぱり楽しそうだった
子ども教育学科学生	ピアノを弾いたり工作などを室内ではしたりしている 外では先生も一緒に遊んでいる	少し高まった	やりがいや働いてみることで喜びを知れた
子ども教育学科学生	保護者が安心して子どもを預けられるような環境を作っているイメージ 明るく元気ハツラツ	少し高まった	マイナスのイメージだけでなく、プラス（やりがい）を知れたから
子ども教育学科学生	未回答	少し高まった	未回答
子ども教育学科学生	行事（前も後も）が大変 子どもたちの降園後も何かとやること多い	少し高まった	幼稚園より保育園志望だから
子ども教育学科学生	明るく元気で子どもたちと全力で遊ぶ 遊びだけではなく、教養の面でもしっかりと分けて活動を行っている	少し高まった	不安な部分が多かったけれど、一生懸命日々子どもと関わっていれば、楽しいことややりがいがあることが知れた
子ども教育学科学生	子どもの安全を守り、楽しく遊ぶ	少し高まった	経験を自分のものにしていくから
付き添い	子ども一人一人を大切に、向き合っている	どちらとも言えない	うれしいことや楽しいことだけでなく、同じように大変なことが多いと思うから
子ども教育学科学生	毎日楽しいが大変	どちらとも言えない	未回答
子ども教育学科学生	優しい	どちらとも言えない	児童養護施設の職員になりたいため
子ども教育学科学生	遊ぶときや学ぶときの環境を作ったり、子どもの様子、小さな変化を見つけたりする	どちらとも言えない	決まっているため
子ども教育学科学生	大変 やりがいがある	どちらとも言えない	変わらない
子ども教育学科学生	子どもの気持ちの代弁者	どちらとも言えない	自分の目標はずっと母園の先生方だから
子ども教育学科学生	未回答	どちらとも言えない	未回答
子ども教育学科学生	子どもを包み込んでくれる安全基地	どちらとも言えない	給与と仕事内容による
子ども教育学科学生	未回答	どちらとも言えない	未回答
子ども教育学科学生	優しい、可愛らしい	どちらとも言えない	自分の捉え方や行動によって人生そのものが大きく変わると思った
子ども教育学科学生	子どもが好きそう 大変そう	どちらとも言えない	幼稚園の先生とその良さを感じた

中高生の自由記述「実の声で良さを聞いて、さらに夢が強くなった」より、中高生が実際に現役幼稚園教諭の話の聴くことで憧れが増すと云える。また養成校生の「やさしい、ピアノ、大変」が「未来が見えた」に、「大変、日案とか考えて行動していてすごい」が「楽しそうだった」に変化していることから、養成校生にとって現役幼稚園教諭と関わる事は将来の就職に影響を及ぼすことが分かった。

⑦今後、幼児教育に関するどのようなイベントがあれば参加したいか

表3-3 幼児教育に関する参加したいイベント

中高生
・絵本の読み聞かせ、ペープサートの実演
子ども教育学科学生
・実際に幼児環境を体験する
・運動会
・子どもと触れ合うイベント
・子どもの楽しむイベント、コッ
・実際に会って相談できる場
・今回のような卒業生の話聞けるイベント
・交流できる場所（ラフに）
・1年目の働き方
・講演
・先輩方の保育を見たり、それをどう改善したかなどを聞いたりしたい
・参加したい
付き添い
・タイミング等が合えば参加したい
その他
・若手教諭のみなさまのお話を、もっと詳しく時間をとって聞いてみたい（相談会等）

今後、幼児教育に関する参加したいイベントについて自由記述で回答を求めたところ、「子どもと触れ合うイベント」、「運動会」など実際に子どもと関わるものと、「卒業生の話聞けるイベント」、「先輩方の保育を見たり、それをどう改善したかなどを聞いたりしたい」の様に現役幼稚園教諭と幼児教育について一緒に学ぶイベントがあった。

このことから、今後も幼児教育の魅力伝え、そのキャリア形成を考える為には、①実際に子どもと関わるイベント、②現役幼稚園教諭と関わるイベントを行うことが必要であることが分かった。

### 3-3. 今後の課題

高校生や養成校生に、幼児教育の魅力や幼稚園教諭等保育従事者のキャリアについて伝え、交流することが出来るようなシンポジストの選定を行うことが重要である。また、今年度は、シンポジウムと交流会に参加した養成校生が就職前の4年生であった。学年を変えることで、養成校生は一層、幼稚園教諭の魅力を感じ、就業意識に繋げることが出来ると考えられる。今回、イベントに参加した高校生や保護者は、幼児教育の魅力を感じ、幼稚園教諭のキャリアについて触れることが出来たが、参加人数が少なかった為、中高生へのイベント周知の方法が今後の課題である。

#### 4. 川西市食育フェアにおける「遊び×食育」を通じた幼児教育の魅力を伝える活動

##### 4-1. 成果

- ① 実施日時  
2024年12月15日（日） 12:30～16:00
- ② 参加者数  
幼児、小学生、一般市民  
大阪青山大学子ども教育学部の4年次生24名（アンケート回答者 19名）
- ③ 実施場所  
キセラ川西
- ④ 実施内容  
「遊び×食育」を通じた幼児教育の魅力の発信（食べ物に関する折り紙、塗り絵、玩具、絵本）

##### 4-2. アンケート結果

###### ① 幼児教育の魅力発信

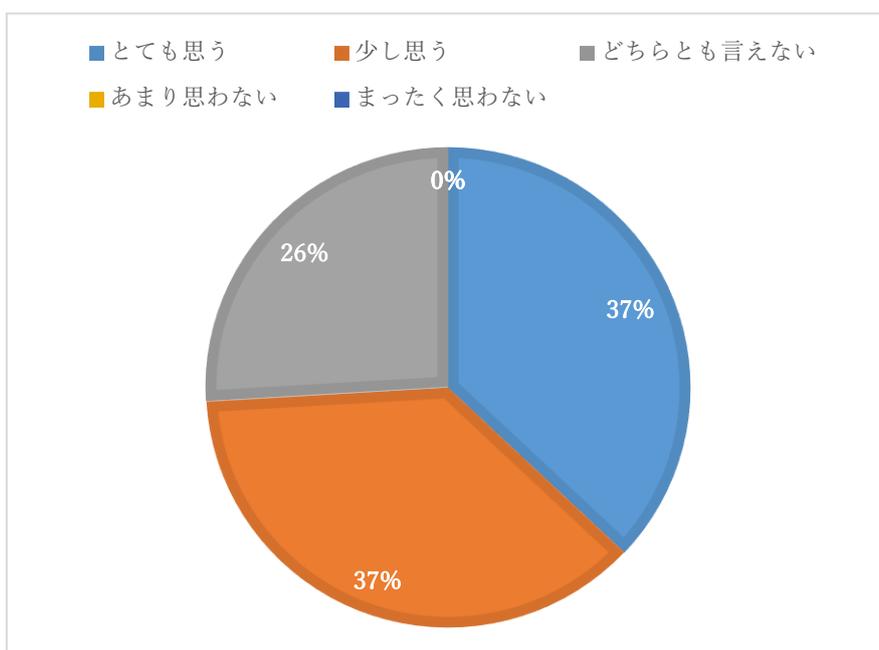


図4-1 遊びを通じた幼児教育の魅力発信について

川西市が主催する食育イベントに本学学生（24名）が参加し、「遊び×食育」をテーマに遊びを通じた幼児教育の魅力を伝える活動（食に関する絵本の読み聞かせ、木の玩具、塗り絵、折り紙）を行った。この活動を通して養成校生が一般市民の方に、幼児教育の魅力発信が出来たかに聞いたところ「とても思う」37%（10）、「少し思う」37%（10）、「どちらとも言えない」26%（7）であった。「とても思う」と「少し思う」を合わせると、74%の学生が高まると答えていた。このことから、養成校生は市民の方に遊びを通じた幼児教育の魅力を伝えることが出来たと考えていると言える。

## ② 幼児教育への理解

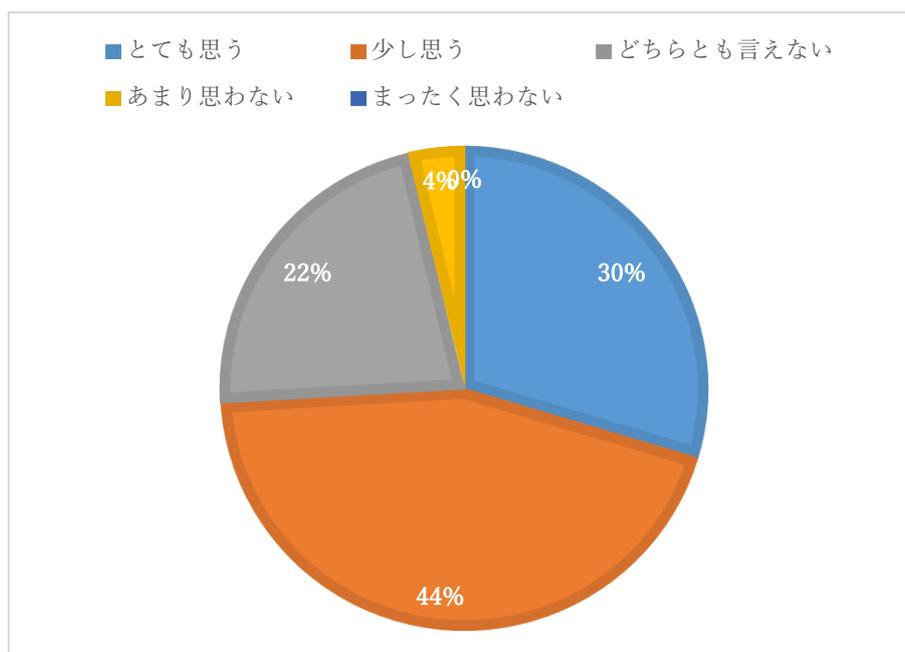


図4-2. イベントを通した幼児教育への理解の深まり

「遊び×食育」をテーマに遊びを通した幼児教育の魅力を伝える活動（食に関する絵本の読み聞かせ、木の玩具、塗り絵、折り紙）を通した、一般市民の方に対する幼児教育への理解の深まりについて養成校生に聞いたところ、「とても思う」30%(8)、「少し思う」44%(12)、「どちらとも言えない」22%(6)、「あまり思わない」4%(1)であった。「とても思う」と「少し思う」を合わせると、74%の学生が高まると答えていた。このことから、養成校生は、遊びを通した活動を行うことで、一般市民の方に幼児教育への理解を促すことが出来ると考えていることが分かった。

### ③ 幼児教育の魅力が伝わるイベントについて（自由記述）

表4-1. 養成校生が考える幼児教育の魅力が伝わるイベント

生活の中で必要な習慣でどんなことがあるのかを親が言い合う。または紙に書いて並べる。それをほかの親がみる。
申し込み不要でもできる体験型のイベント
学生が開く子どもと触れ合いの場等
今回のようなイベントや、参加型のイベント等
色々な絵本の読み聞かせ
この様なイベントの開催数を増やす
遊びを中心としたイベント
地域での交流や、大人も子どもが協力して一緒に活動できるようなイベントがあればいいと思う。
親子で参加出来るもの。例えば親子クッキングや制作など。
地域の子どもたちが集まって楽しめるようなお祭り
行事に関する製作物をつくる
季節にあった行事
同じ市民同士、子ども同士の関わりを持つことができるようなもの
今回のように子どもたちが楽しむ姿を保護者の方が直接見ることで子どもはこんな事が楽しいんだと発見もあり、幼児教育の魅力にも繋がると思います。
今回は子どもがメインだったので、大学生を中心に大人も子どもも参加できるものがあると良いなと思った。
幼児との関わりを目的としたイベントなどで、授業で学んだことを活かした遊びができれば尚いいと思う。今の幼児教育の課題点や、それに対する考え方などを、発表できる場などがあればいいと思う。
子どもたち自身がお店の当番ができるようなイベント
運動遊び
講義を開く、駅のホームや街中などの人の目にとまるところにポスターを貼る
子どもの発想力を活かす活動
保護者と子どもと一緒に体験出来る形のイベントが伝わりやすいのではないかと感じた
実際に食べ物に触れ、興味・関心を得てから伝えると魅力も上げて楽しいと思う。 季節に合わせて食に触れることで時期ごとの楽しみが増える。
運動だったり行事ごとに対するイベント
地域の子どもたちの遊び場を作れたら、さまざまな子どもの姿を見ることができて意識などに役立つと思いました。
幼児が楽しめる遊びがあるイベント
つたわった
未回答

幼児教育の魅力を伝える方法として、「今回のように子どもたちが楽しむ姿を保護者の方が直接見ることで子どもはこんな事が楽しいんだと発見もあり、幼児教育の魅力にも繋がると思います」や「保護者と子どもと一緒に体験出来る形のイベントが伝わりやすいのではないかと感じた」から、幼児教育を学ぶ学生が子どもと関わるイベントを開催することは、幼児教育の魅力を伝える一助になることが分かった。

#### 4-3. 今後の課題

イベント参加者に、QRコードを使用したアンケート調査を依頼したが、回答はゼロ件であった。この理由として、子どもといっしょに来場した参加者が多かったこと、活動そのものを楽しむ参加者が多かったことが理由として考えられた。このことからイベント参加者に、幼児教育の魅力を伝えその理解を促す為の、効果検証の方法については更なる検討が必要である。

## 5. 幼児教育の魅力を伝える動画の効果検証（アンケートの分析）

### 5-1. 成果

昨年度採択された本事業において、幼児教育の魅力を伝える動画として、①「幼稚園・保育園の一日」②「幼稚園教諭を目指す大学生の一日」③「幼稚園実習の一日」を作成し、その効果検証としてアンケートを実施した。今年度は、さらに追加で動画視聴とアンケートの実施を高校に依頼し、養成校生と高校生で動画視聴の効果に違いがあるかどうかを検討した。

#### ①アンケート対象者及び実施期間と方法

高校生：197名（協力対象校4校）

養成校生：193名（本学学生）

昨年度は2024年1月～2月、今年度は2025年9月下旬～1月に実施した。高校には、昨年度は出張授業の中で動画を視聴してもらい、紙式のアンケートへの回答を求めた。今年度は、高校に依頼し、紙式またはインターネット上での回答を求めたが、インターネット上での回答は0件であった。養成校生は、すべて本大学の学生であり、学年ごとに特別時間（ホームルームのような時間）に動画視聴とアンケートを実施した。今年度は、昨年度回答していない1年次のみの実施である。

#### ②対象者の属性

まず、回答者の学年ごとの人数および希望職種の回答人数を表5-1に示す。学年の人数が大きく異なるため、高校生および養成校生の2群に分け、希望職種ごとの割合を算出した（表5-2）。なお、アンケートでは「幼稚園教諭」「保育士」「その他」「未定」の4項目で回答を求めたが、「その他」で小学校教諭と書かれていたものを新たに項目立てしている。高校生で「未定」が半数以上を占めるのは、まだ進路を決める前の1・2年生が多いことから、当然の結果である。養成校の大学4年生は、ほぼ就職先が確定している時期の回答であった。また、養成校生の「未定」には、幼稚園教諭か保育士、保育士か養護施設職員、小学校教諭か特別支援学校教諭といった本学で取得可能な資格を要する職業で迷っているという回答が複数含まれていた。すなわち、養成校生は基本的には幼稚園・保育所・小学校・施設いずれかの先生を目指しているのに対して、高校生には、幼児教育・保育職を目指している者とそうでない者が含まれていることが分かる。

次に、今までの子どもとの関わりについての回答結果を表5-3に示す。高校生、養成校生ともに「実習」が一番多くなっているが、次いで小・中・高いずれかの時期の「職業体験」が多くなっている。また、高校生では、今までに「子どもとの関わりが全くない」としているものが約半数いる。ここから高校までに職業体験や実習で子どもとの関わりを経験している人ほど、幼稚園教諭や保育士といった職を目指そうとする人が多くなることが考えられる。

また、養成校生はボランティアやアルバイト等で日常的に子どもと関わっている者が一定数いることが分かった。

#### ③動画視聴の効果の検証

3本の動画を見て、幼稚園教諭・保育士の仕事に魅力を感じたか（動画①）、幼児教育・保育分野の大学に対する関心が高まったか（動画②・③）という質問に対する回答の平均を図5-1に示す。回答は、「全くそう思わない」「余りそう思わない」「どちらともいえない」「どちらかと言えばそう思う」「とてもそう思う」の5件法で求め、肯定的な回答が5点となるよう1点から5点で採点している。

表5-1 アンケートの回答者の属性

	幼稚園 教諭	保育士	小学校 教諭	その他	未定	総計
高1	9	15		3	13	40
高2	6	11	1	29	92	139
高3	1			12	5	18
大1	19	30	24	4	28	105
大2	4	10	7	6	8	35
大3	5	9	6	2		22
大4	8	7	6	6	4	31
総計	52	82	44	62	150	390

表5-2 希望職種ごとの割合

	幼稚園 教諭	保育士	小学校 教諭	その他	未定
高校生 (197名)	8%	13%	1%	22%	56%
養成校生 (193名)	18%	29%	23%	9%	21%

表5-3 子どもとの関わり経験（複数回答）

	実習	職業体 験	ボラン ティア	アルバ イト	関わり なし
高校生 (197名)	31%	20%	8%	1%	51%
養成校生 (193名)	66%	66%	36%	13%	9%

すべての項目の平均が肯定的なものとなっており、動画視聴によって幼児教育・保育職の魅力を感じ、養成校への関心が高まったと言える。t検定の結果、動画①については、高校生と養成校生で有意差なし、動画②と動画③は養成校生の方が有意に高い(②は $p < 0.01$ 、③は $P < 0.05$ )という結果だった。このような結果になった理由として、動画の中に友人や先輩が登場する等、養成校生の方が内容への親和性が高かった可能性がある。

以下に、それぞれの動画ごとの回答結果を示す。

### 【③-1 動画①について】

動画①は前半が幼稚園の一日、後半が保育園の一日の流れを伝える動画になっており、最後に園長が保育の意義に関して全体をまとめる形で述べる内容となっている。この動画を見て、表5-4に示す1~17の質問に対して5件法で回答を求めた。なお、質問項目11~16は、反転項目であり、「とても思う」が1点になるように採点している。高校生と養成校生の平均値の差についてt検定を行い、有意水準(両側p値)が5%より小さいものを表中太字で示している。

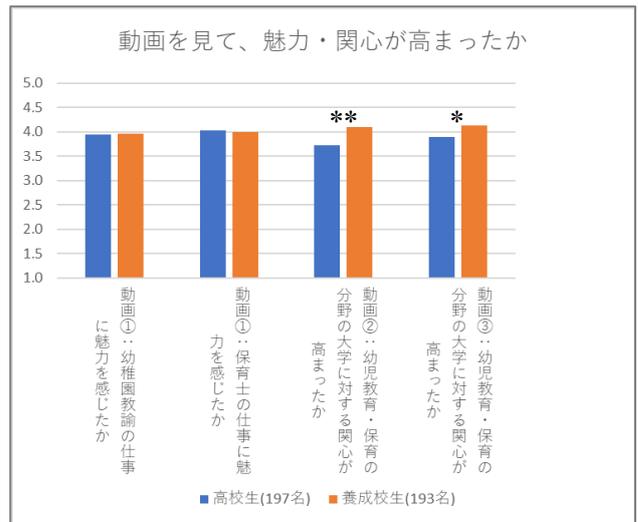


図5-1 動画の印象について

表5-4 幼稚園教諭・保育士のイメージ(高校生と養成校生の比較)

	【動画①: 幼稚園の一日】							【動画②: 保育園の一日】						
	高校生		養成校生		平均の差	t値	両側p値	高校生		養成校生		平均の差	t値	両側p値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差				平均	標準偏差	平均	標準偏差			
1.世の中のためになる仕事(社会的意義のある仕事)	4.64	(0.51)	4.72	(0.52)	-0.08	-1.51	0.131	4.67	(0.52)	4.70	(0.52)	-0.03	-0.59	0.553
2.みんなから尊敬される仕事	4.50	(0.63)	4.35	(0.78)	0.14	1.99	<b>0.047</b>	4.53	(0.66)	4.41	(0.75)	0.12	1.67	0.096
3.資格や専門知識が必要な仕事	4.46	(0.82)	4.75	(0.59)	-0.29	-3.98	<b>0.000</b>	4.51	(0.75)	4.78	(0.53)	-0.27	-4.18	<b>0.000</b>
4.専門知識や技術面でスキルアップしていける仕事	4.37	(0.71)	4.56	(0.72)	-0.19	-2.62	<b>0.009</b>	4.44	(0.70)	4.57	(0.68)	-0.13	-1.84	0.067
5.子どもの成長に携われる仕事	4.77	(0.50)	4.89	(0.39)	-0.12	-2.74	<b>0.007</b>	4.78	(0.45)	4.86	(0.43)	-0.07	-1.63	0.103
6.保護者に感謝される仕事	4.55	(0.62)	4.54	(0.67)	0.01	0.22	0.824	4.56	(0.64)	4.61	(0.62)	-0.06	-0.88	0.380
7.雇用不安の少ない仕事	3.78	(0.97)	3.57	(0.97)	0.21	2.15	<b>0.032</b>	3.86	(0.89)	3.51	(0.95)	0.35	3.76	<b>0.000</b>
8.平日に休暇を取りやすい仕事	3.04	(1.33)	2.38	(1.20)	0.66	5.12	<b>0.000</b>	3.18	(1.27)	2.56	(1.19)	0.62	4.95	<b>0.000</b>
9.様々な働き方が可能で長く働くことができる仕事	3.85	(0.98)	3.23	(1.09)	0.62	5.95	<b>0.000</b>	3.89	(1.01)	3.42	(1.13)	0.47	4.34	<b>0.000</b>
10.結婚・出産・育児と両立ができる仕事	3.48	(1.12)	3.03	(1.04)	0.45	4.07	<b>0.000</b>	3.58	(1.11)	3.09	(1.02)	0.49	4.49	<b>0.000</b>
11.勤務時間が長い(残業が多い)仕事*	2.20	(1.08)	2.27	(1.02)	-0.08	-0.72	0.473	2.00	(1.00)	1.99	(0.97)	0.01	0.11	0.916
12.責任が重い仕事*	1.37	(0.65)	1.21	(0.52)	0.16	2.71	<b>0.007</b>	1.40	(0.68)	1.16	(0.46)	0.25	4.19	<b>0.000</b>
13.職員同士の人間関係が難しい仕事*	2.29	(1.08)	2.16	(1.03)	0.13	1.17	0.243	2.17	(1.02)	2.08	(1.00)	0.09	0.93	0.355
14.保護者への対応が難しい仕事*	1.79	(0.89)	1.65	(0.81)	0.15	1.70	0.090	1.79	(0.83)	1.61	(0.79)	0.19	2.24	<b>0.026</b>
15.体力的に厳しい仕事*	1.90	(0.96)	1.86	(0.88)	0.04	0.41	0.682	1.85	(0.92)	1.76	(0.85)	0.08	0.92	0.358
16.給料が安い仕事*	2.17	(0.96)	1.87	(0.86)	0.30	3.24	<b>0.001</b>	2.17	(0.96)	1.85	(0.92)	0.31	3.29	<b>0.001</b>
17.人気がある仕事	3.68	(0.90)	3.26	(0.97)	0.42	4.43	<b>0.000</b>	3.84	(0.97)	3.55	(1.02)	0.29	2.84	<b>0.005</b>

また、この結果をグラフで示したものが図5-2、5-3である。グラフは、養成校生の回答の平均値が高い順に項目を並べ替えている。グラフは3点(どちらでもない)を中心に、上に行くほど肯定的なイメージ、下に行くほど否定的なイメージを回答していることになる。

ここから、高校生・養成校生ともに、職業イメージとして幼児教育・保育職が意義のあるためになる仕事であるが、同時に責任が重く保護者対応が難しい仕事であること、また、給与が安く、体力的に大変な仕事であるという印象を有していることがわかる。その中でも養成校生の方がより意義のある仕事であり、資格や専門知識が必要とされているという意識を有意に高く有しているという結果である。一方で平日に休暇が取りやすく、様々な働き方ができ、人気のある職業であるという項目に関しては、高校生の方が相対的に高い回答となっている。これについては、世間一般の職業イメージが高校生の回答には反映されており、養成校生は、学びを通して仕事の大変な面も理解するようになってきていることの現われと考えることもできる。

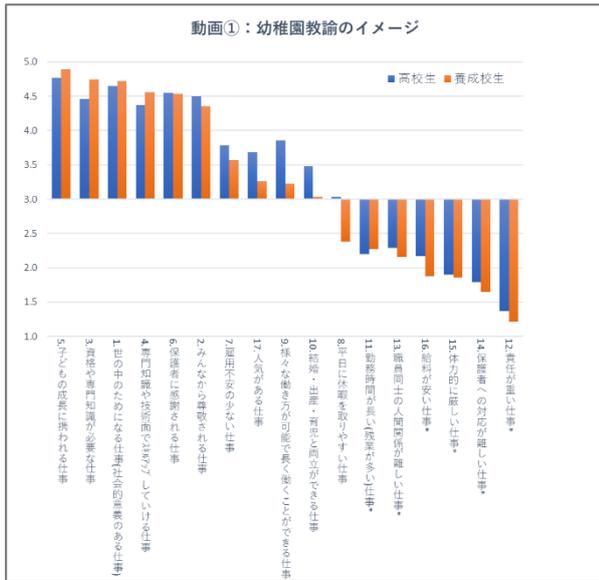


図 5-2 幼稚園教諭のイメージ

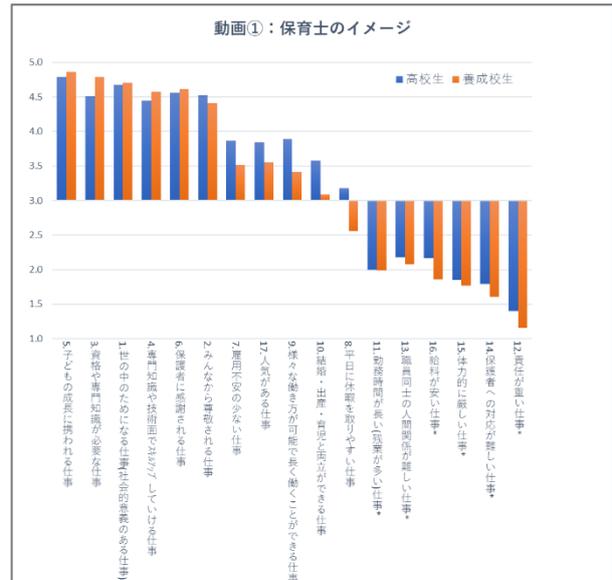


図 5-3 保育士のイメージ

### 【③-2 動画②について】

動画②は、養成校の学生が登学時から授業の実際の様子、昼休みや、友人との時間、そして放課後の幼児教育・保育施設でのアルバイトの様子までを追った内容となっている。アンケートの回答の分析にあたっては、高校生のうち、今までの子どもとの関わり経験について「経験なし」と回答した者を幼児教育・保育職への関心が低い人と仮定し、高校生を経験なし/経験ありの2群にさらに分け、養成校生との比較をした。その結果を図 5-4 に示した。

ここからどの群においても、授業の内容についての関心が一番高かったことがわかる。大学の設備に関しては、実際に大学に通っている養成校生の関心が一番高いという結果になった。これは回答した大学生の半数が1年次であり、まだ自分が知らない施設の紹介があったからと考えることもできる。幼児教育・保育職に関心が低い人は、養成校の設備にも関心があまりないというのは納得の結果である。また、幼保関連のアルバイトの様子については、幼児教育・保育職に関心がある高校生にとって特に魅力に感じられたと言える。

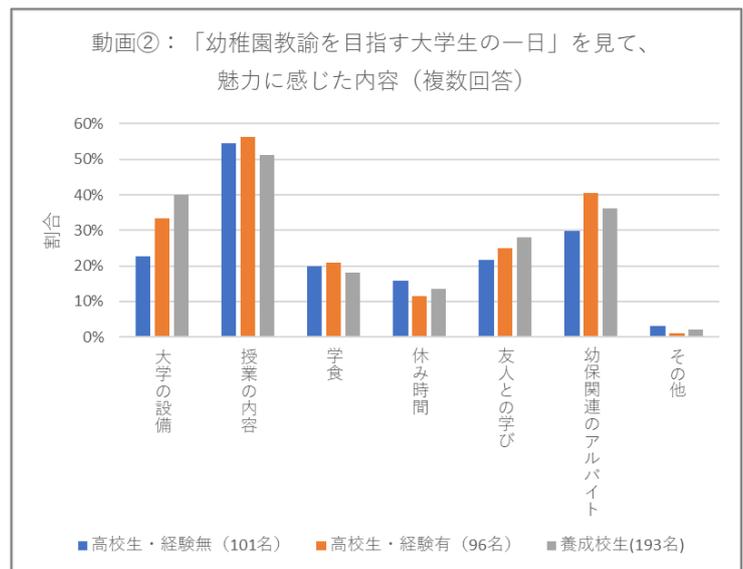


図 5-4 動画②を見て魅力を感じた内容

ここから、養成段階において、幼児教育の魅力を発信するためには、授業の内容を具体的にアピールしていくことが効果的であると考えられる。

### 【③-3 動画③について】

動画③は、幼稚園での実習の一日について、実習生を中心に据えて撮影したものである。この動画を視聴して感じた印象の結果についても動画②と同様に幼児教育・保育職に関心が低い高校生と関心がある高校生、そして養成校生の3群に分けて分析を行った(図 5-5)。なお、質問項目は、図中の点線を境に左側が肯定的な内容、右側が否定的な内容となっている。

どの群においても、幼児教育・保育職が子どもの成長を支える仕事であり、やりがいがあり、楽しそうだが、同時に忙しく大変そうという印象を有したことがわかる。その中でも幼児教育・保育職に関心がある高校生は、実習生の幼稚園児との関わりから「楽しそう」という印象を強く感じたことが分か

る。逆に「子どもが好きでない」という印象は、幼児教育・保育職に関心が低い高校生の方が強く意識したと言える結果となった。また、「専門的な知識や技術を必要とする」という項目は、養成校生と高校生で大きく異なる結果となった。高校生は、幼児教育・保育従事者が楽しく子どもと関わっているという表面的な受け留めに留まったのに対して、養成校生は日々の学びを通して、幼児教育・保育従事者の活動にはねらいがあり、一見ただ遊んでいるように見える活動であっても、そこには子どもの発達を支える意図があるということ念頭に置いて動画を視聴していたと考えられる。

### 【③-4 動画視聴を通じたイメージの変容について】

ここまで見てきた結果は、動画視聴後のアンケート回答によるものであり、元々回答者が有していた職業に対するイメージがどの程度あり、動画視聴を通してそれがどのくらい変容したのかを捉えることができていなかった。そこで、今年度は大学1年生について、後期のキャリア形成の授業と関連づける形で、後期の開始時点にまず、職業イメージのみを表5-4の17項目について、幼稚園教諭、保育士、加えて小学校教諭、施設保育士のそれぞれに関して回答を求めた。後期中頃に、他の人と同様に動画視聴をし、アンケートに回答してもらい、授業期間の最後に再度4つの職業に関するイメージを回答してもらった（分析にあたっては本事業に賛同が得られたもののみを利用している）。その結果を図5-6と5-7に示す。

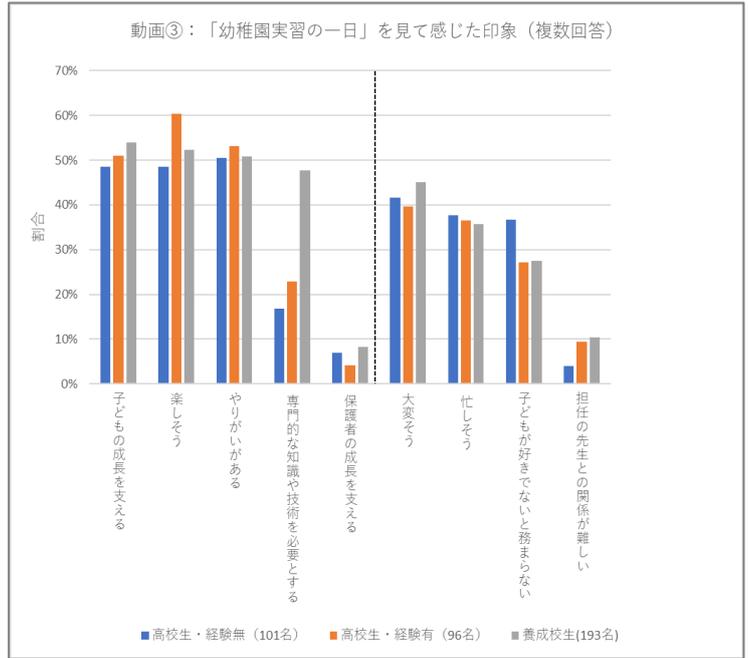


図 5-5 動画③を見た印象

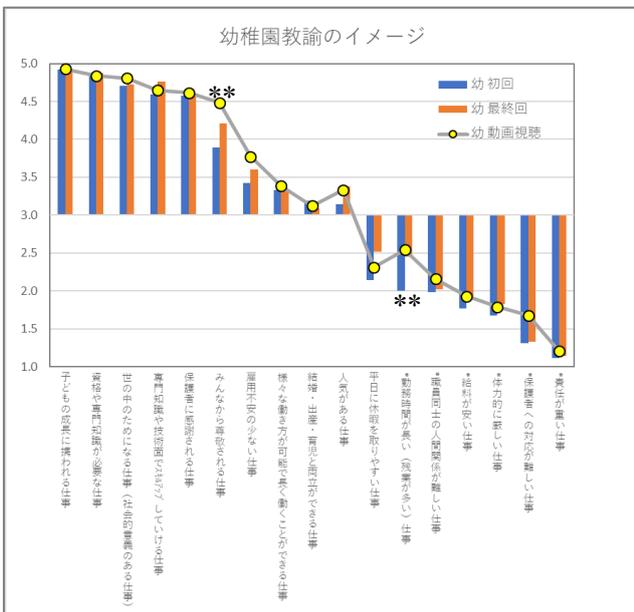


図 5-6 幼稚園教諭のイメージの変化

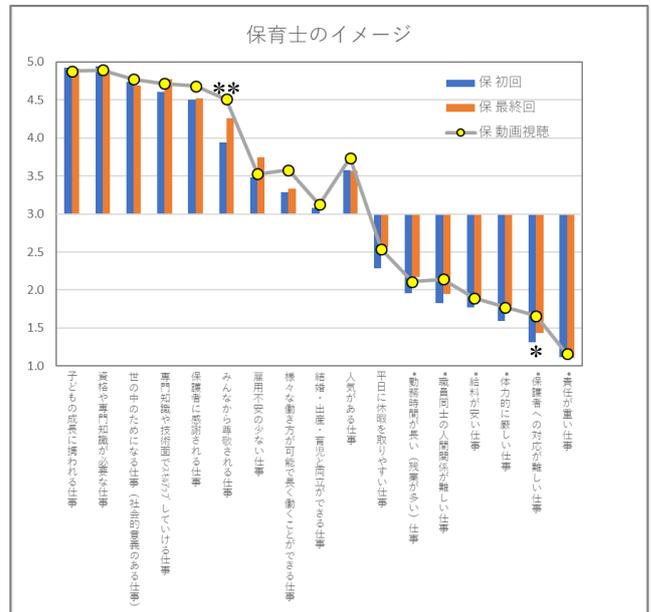


図 5-7 保育士のイメージの変化

ここから、もともと幼児教育・保育職に対して好意的なイメージが高く、「子どもの成長に携われる」「資格や専門知識が必要」といった項目に関しては天井効果が認められる。また、「責任が重い仕事」という項目もほとんどの回答者が「とてもそう思う」と回答しており、責任の重さを理解した上で、保育者養成校に入学してきていると言える。また、動画視聴時の結果（折れ線グラフ）が棒グラフよりも高くなっている項目は複数あり、動画視聴によって肯定的内容／否定的内容ともに好意的な方向



た。」「初心にかえることができた」といった肯定的な内容だけでなく、「課題や日誌等のしんどいものが基本なかったなと思った。」「良い所ばかり、見せていると思った。実習の一日なのに実習日誌のことがなかったり、良い所ばかりではだめだと思う。」「あたり前なのだろうけど良いところしかうつっていないから、デメリットや大変なところが分からない」というように、楽しい面だけでなく、大変な面も伝えていく必要があるという意見が少数ではあるが記載されていた。

#### ④動画視聴の効果検証のまとめ

以上の分析から、幼児教育の魅力を伝える動画視聴には、幼児教育・保育職の魅力を向上させる一定の効果が認められるという結果となった。また、動画視聴を通して得られる情報は、個人の経験によっても異なり、子どもとの関わり経験が多い人や、実際に幼児教育・保育職を希望している人に対しては訴求力が高い一方で、子どもとの関わり経験が少ない人や、他職種を希望している人に対しては、既に有している職業イメージのマイナス部分はあまり変化しないこと、また楽しさよりも大変さに着目されやすい傾向があることがわかった。また、動画視聴の効果は、持続的なものではなく、1回の動画視聴のみでは、それまでに個人が作り上げてきた職業観を大きく変容させるのは難しいことが示唆された。

### 5-2. 今後の課題

事業の成果物としての動画利用の方法については、中学校や高校学校でのキャリア指導の一環として、幼稚園教諭や保育士といった職業の実際を知るために視聴することや、養成校入学後の1年生が、実習の実際の姿を知るために利用するといったことが考えられる。

今後の課題としては、高校生へのアンケート実施が一時点のみしかできていないことが挙げられる。日常的に幼児教育・保育従事者について学んでいる養成校生は、動画視聴で影響を受けた後も日々学び続ける中で、その印象がさらに変動している可能性がある。一方、高校生にとっては動画で視覚的に具体的に幼稚園教諭や保育士の様子を見ることは、大きなインパクトを残した可能性も考えられる。高校生において、この動画視聴の効果がどの程度続くのかを検証することで、これからの幼児教育・保育職従事者を増やしていくためのひとつの方策として、幼児教育・保育職の具体的な内容を伝える動画を取り入れることの意義がより明確になると考えられる。ただし、今回大学1年生に対して行ったような、複数回のアンケートを実施することは、高校の授業時数などカリキュラムに関わることであり、研究計画時点から高大連携で取り組まないといけないため、一大学のみでの取り組みでは、対応が難しい。

また、今回の分析を通して、幼児教育・保育職を希望して養成校に進学する学生には、それまでの子どもとの体験が大きく影響している可能性がうかがえた。小・中学校の義務教育段階で、様々な職業を体験し、その中で子どもと関わる経験を重ねることが将来の幼児教育・保育従事者を増やすための現実的な方策となりうると思われる。また、今回のアンケートから子どもとの関わりへの不安がある者が一定数存在していることが伺われた。これは、少子化で異年齢の子どもとの関わりが減少しているという今の子ども達が置かれている状況も関連していると思われる。小・中学校段階で、子どもと関わる経験を複数回、あるいは日常的に行うことで、子どもとの関わりに関する不安を低減させるといった取り組みについても今後検討が必要ではないかと思われる。

## 6. 幼児教育の魅力伝える TikTok の作成

### 6-1. 成果

#### ■ 配信（調査）期間

2024年8月21日～2025年2月6日

#### ■ 活用した SNS

TikTok（2023年度から活用）、YouTube 及び YouTube ショート（2024年度から活用）

#### ■ 内容

幼児教育の魅力や養成校生の学びを発信することを目的に、在学生・卒業生へのインタビューやピアノ初心者の練習プロセス、実習交流会の内容等を配信した。

表6-1. TikTok データ一覧

発信日	記録日	内容	最高視聴数	動画視聴数	いいね	フォロワー数 (前回差)	合計再生時間	フル視聴率	トラフィックソース			視聴者			年齢		検索ワード		
									おすすめ	検索・プロフィール等	その他	男性	女性	その他	18-24	25-	第1位	第2位	第3位
8月21日	8月28日	保育・教育研修報告	675	878	11	154	1時間34分25秒	6.47%	76.0%	24.0%	35.0%	65.0%	0.0%	58.0%	42.0%	大阪青山大学 (55.1%)	大阪青山 (13.0%)	大阪青山大学 女の子 (5.8%)	
10月30日	11月6日	ピアノ初心者・あと70日	371	676	11	167 (+13)	1時間53分40秒	6.29%	65.0%	35.0%	22.0%	78.0%	0.0%	53.0%	47.0%	大阪青山大学 (70.7%)	大阪青山 (6.1%)	大阪青山大学 子供教習科 (3.7%)	
11月6日	11月13日	大学祭告知	324	552	8	168 (+1)	1時間42分1秒	7.34%	61.0%	39.0%	36.0%	64.0%	0.0%	55.0%	45.0%	大阪青山大学 (48.7%)	大阪青山大学 大学祭 (14.1%)	大阪青山 (9.0%)	
11月8日	11月15日	ピアノ初心者・あと64日	395	686	8	169 (+1)	2時間4分45秒	3.32%	58.8%	41.2%	32.0%	68.0%	0.0%	59.0%	41.0%	大阪青山大学 (86.9%)	大阪青山大学 女の子 (1.9%)	大阪青山大学 大学祭 (1.9%)	
11月29日	12月6日	ピアノ初心者・あと43日	350	625	13	169 (+0)	1時間48分56秒	3.83%	63.4%	38.6%	32.0%	68.0%	0.0%	65.0%	35.0%	大阪青山大学 (54.9%)	大阪青山 (16.5%)	大阪青山大学 看護 (4.4%)	
12月7日	12月14日	ピアノ初心者・あと36日	346	522	12	169 (+0)	1時間56分48秒	5.50%	66.7%	33.3%	31.0%	69.0%	0.0%	55.0%	45.0%	大阪青山大学 (56.1%)	クラス青山 (7.0%)	大阪青山 (5.3%)	
12月9日	12月16日	ピアノ初心者・あと29日	919	1,069	9	169 (+0)	2時間11分45秒	3.97%	90.5%	9.5%	31.0%	69.0%	0.0%	55.0%	45.0%	大阪青山大学 (69.8%)	教育学部ピアノ (4.7%)	大阪青山 (4.7%)	
12月11日	12月18日	この指題特急	905	1,096	13	169 (+0)	2時間29分23秒	2.00%	91.5%	7.7%	20.0%	80.0%	0.0%	57.0%	43.0%	大阪青山大学 (75.0%)	大阪青山 (4.5%)	大阪青山大学ソフトボール (4.5%)	
12月13日	12月20日	ピアノ初心者・あと15日A	897	1,048	11	169 (+0)	2時間28分53秒	2.46%	93.5%	6.5%	33.0%	66.0%	1.0%	55.0%	45.0%	大阪青山大学 (43.9%)	大阪青山大学ソフトボール (19.5%)	大阪青山 (12.2%)	
12月17日	12月24日	ピアノ初心者・あと15日B	879	976	7	170 (+1)	2時間9分12秒	2.23%	92.9%	7.1%	29.0%	71.0%	0.0%	63.0%	37.0%	大阪青山大学 (58.7%)	大阪青山 (19.6%)	大阪青山大学 子供教習科 (6.5%)	
12月19日	12月26日	ピアノ初心者・あと8日A	981	1,126	13	170 (+0)	1時間59分45秒	1.85%	93.8%	6.2%	30.0%	70.0%	0.0%	57.0%	43.0%	大阪青山大学 (42.3%)	大阪青山 (13.5%)	大阪青山大学定期演奏会 (9.6%)	
12月20日	12月27日	ピアノ初心者・あと8日B	830	1,005	8	170 (+0)	1時間32分26秒	1.18%	92.5%	7.5%	33.0%	66.0%	1.0%	63.0%	37.0%	大阪青山大学 (58.8%)	大阪青山 (21.6%)	大阪青山大学定期演奏会 (7.8%)	
12月25日	1月1日	卒業生インタビュー①	965	1,075	9	170 (+0)	1時間15分24秒	1.94%	94.6%	5.4%	44.0%	56.0%	0.0%	58.0%	42.0%	大阪青山大学 (46.3%)	大阪青山 (26.8%)	大阪青山大学 子供教習科 (4.9%)	
12月27日	1月3日	卒業生インタビュー②	942	1,039	8	170 (+0)	59分35秒	0.67%	94.6%	5.4%	46.0%	54.0%	0.0%	57.0%	43.0%	大阪青山大学 (61.3%)	大阪青山 (38.7%)	—	
1月20日	1月27日	4年次生インタビュー①	368	538	10	171 (+1)	1時間24分39秒	4.17%	87.4%	12.6%	40.0%	59.0%	1.0%	55.0%	45.0%	大阪青山大学 (19.0%)	大阪青山大学 子供教習科 (4.9%)	保育学生 (11.9%)	
1月21日	1月28日	4年次生インタビュー②	1,031	1,129	7	171 (+0)	1時間7分22秒	0.87%	91.5%	8.5%	49.0%	50.0%	1.0%	67.0%	33.0%	大阪青山大学 (63.0%)	大阪青山大学 子供教習科 (18.5%)	福岡こども発達大学 (3.7%)	
1月22日	1月29日	大学祭・ミニコンサート	674	971	14	171 (+0)	2時間8分32秒	2.55%	90.7%	9.3%	38.0%	62.0%	0.0%	67.0%	33.0%	大阪青山大学 (90.0%)	大阪保育大学 (5.0%)	大阪青山大学 子供教習科 (5.0%)	
1月23日	1月30日	大学祭・シンポジウム	180	349	6	171 (+0)	1時間3分7秒	4.27%	78.9%	21.1%	43.0%	57.0%	0.0%	58.0%	42.0%	大阪青山大学 (51.4%)	大阪青山大学 子供教習科 (8.1%)	大阪医科大学薬学部 (5.4%)	
1月28日	2月4日	定期演奏会報告	336	633	14	170 (-1)	2時間22分51秒	5.70%	83.9%	16.1%	32.0%	67.0%	0.0%	60.0%	40.0%	大阪青山大学 (48.1%)	福岡大学音楽学部 (11.1%)	大阪青山大学 子供教習科 (11.1%)	
1月29日	2月5日	実習交流会①青山	1,066	1,230	9	169 (-1)	1時間20分24秒	0.65%	92.8%	7.2%	36.0%	63.0%	1.0%	59.0%	41.0%	大阪青山大学 (46.4%)	大阪青山大学 子供教習科 (7.1%)	大阪総合保育大学短期大学部 (7.1%)	
1月30日	2月6日	実習交流会②平野	1,081	1,230	15	169 (+0)	1時間54分34秒	0.81%	94.0%	6.0%	36.0%	63.0%	1.0%	58.0%	42.0%	大阪青山大学 (70.0%)	大阪青山大学 子供教習科 (6.7%)	幼児教育専門学校 (6.7%)	

前年度と比較し、フォロワー数に大きな変化はなかったが、以下2つの変化が見られた。

#### ①「検索・プロフィール等」の数値の変化

「トラフィックソース」の「おすすめ」と「検索・プロフィール等」の数値は、10月30日～12月14日の2か月間のみ、「検索・プロフィール等」の数値が3～4割近くある。また、「検索ワード」は「大阪青山大学」が第1位である。ここから、この期間中意図的に本学を検索する人が比較的多くいたことが推察される。なお、この期間は、チラシの配布期間（大阪府、京都府、兵庫県の高校生、一般市民の方々を対象）と重なっていることから、その影響を受けた可能性が考えられる。

## ②動画「ピアノ初心者の練習プロセス」

今回新たな試みとして、ピアノ初心者である養成校生4名の練習プロセス動画(計9本)を10月30日～12月27日の期間配信した。12月9日の配信から「動画視聴数」が1,000回を超え始め、「おすすめ」からの視聴数も9割を超えていた。12月20日の定期演奏会に向けて養成校生を応援する視聴者が出始めたこと、その視聴数が「おすすめ」への掲載率に繋がったと考えられる。

表6-2. YouTube ショートデータ一覧

発信日	記録日	内容	チャンネル登録者数	高評価	総視聴数
10月24日	10月31日	保育・教育研修報告	52	0	76
11月6日	11月13日	大学祭告知	53	0	13
11月12日	11月19日	ピアノ初心者告知	55	1	29
12月4日	12月11日	ピアノ初心者・あと43日	56	1	3
12月4日	12月11日	ピアノ初心者・あと64日	56	1	28
12月10日	12月17日	ピアノ初心者・あと36日	57	2	33
12月11日	12月18日	ピアノ初心者・あと29日	57	1	30
12月26日	1月2日	ピアノ初心者・あと15日A	60	1	18
12月26日	1月2日	ピアノ初心者・あと15日B	60	1	11
12月27日	1月3日	この指超特急	60	1	19
1月6日	1月13日	卒業生インタビュー①	60	2	27
1月7日	1月14日	卒業生インタビュー②	60	2	38
1月21日	1月28日	4年次生インタビュー①	60	2	70
1月22日	1月29日	4年次生インタビュー②	60	2	33
1月24日	1月31日	大学祭・ミニコンサート	60	1	19
1月27日	2月3日	大学祭・シンポジウム	60	1	21
1月28日	2月4日	定期演奏会報告	60	1	22
1月29日	2月5日	実習交流会①青山	60	1	7
1月30日	2月6日	実習交流会②平野	60	1	18

表6-3. YouTube データ一覧

発信日	記録日	内容	チャンネル登録者数	高評価	総視聴数
1月22日	1月29日	幼児教育の魅力について聞いてみた	60	1	16
1月27日	2月3日	手遊びまとめ動画	60	2	23
1月29日	2月5日	ピアノ初心者まとめ動画	60	1	13

## 6-2. 今後の課題

昨年度と比較すると、TikTok のフォロワー数に大きな伸びはなかった。一方、昨年度配信した動画で現在も視聴数、いいね数が伸びているのは「スケッチブックシアター」等の実践系の動画である。視聴者数、フォロワー数の増加や定着を目標にした場合、養成校の学びを配信するとともに、実践系の動画も合わせて配信の方が効果的と考える。

また、今年度より YouTube ショートへの配信も試みたが、登録者数や総視聴数に大きな効果は見られなかった。10代の SNS 利用率は LINE に次いで Instagram が高いため、幅広く SNS を活用しながら、幼児教育の魅力を発信していくことを今後の課題にしたい。

## 7. SNS とイベント案内が一体化したチラシ作成と配布

### 7-1. 成果

活動内容をより広範囲に周知するために、今年度は、SNS とイベント案内が一体化したチラシを作成し、主に高校生とイベント参加の一般市民の方々に配布した。当初は 5000 枚の予定であったが、実施中に不足した為、11 月に 300 枚増刷した。なお、配布先は次の通りである。

大阪府下：約 3830 枚

兵庫県下：約 360 枚

京都府下：約 810 枚

イベント：約 300 枚



図 7-1 チラシ (表面)



図 7-2 チラシ (裏面)

チラシを作成し大阪府、京都府、兵庫県の高校生を中心に一般市民の方にも配布した。TikTok においては通常、「おすすめ」に流れてきた本学科の動画を「たまたま」見た方が 9 割前後であった。しかし、配布期間の 2 か月間は「検索・プロフィール等」が 3～4 割を占めており、「検索ワード」も「大阪青山大学」がトップであった。従って、チラシ配布は SNS の新規視聴者獲得に一定数の効果があった可能性が考えられた。

### 7-2. 今後の課題

今回 5300 枚のチラシを配布した。SNS の新規視聴者獲得には一定数の効果が見込まれたが、各イベントの集客には繋がらなかった。この理由として、両面印刷をした為、表面に注目が集まった事や、複数のイベントが掲載されていたことで、イベントごとの内容薄れてしまったことが理由として挙げられる。このことから、チラシの配布時期と、記載内容については検討が必要である。

### Ⅲ . 研究組織

#### 1. 研究分担者

本研究の研究代表者、研究分担者及び役割分担と役職については表の通りである。

表Ⅲ－1. 研究分担者

	メンバー氏名	役割	役職
全体	戸松 玲子	総責任者	子ども教育学部学部長
	永井 正幸	研究推進者	子ども教育学科学科長
	高木 典子	研究推進者	子ども教育学部教授
	林 富公子	研究推進者	子ども教育学部准教授
	徳留 由貴	研究推進者	子ども教育学部講師
①「保育・教育研修会」	久田 敏彦	講座講師	元大阪青山大学学長
	戸松 玲子	講座講師	子ども教育学部学部長
	高木 典子	講座講師	子ども教育学部教授
	西堂 直子	講座講師	子ども教育学部准教授
	山口 美穂	講座講師	子ども教育学部准教授
	蜂須賀 のぞみ	講座講師	健康科学部特任准教授
	林 富公子	報告書作成	子ども教育学部准教授
②「夏休み講座『かけっこ教室』」	村田 トオル	講座講師	子ども教育学部教授
	林 富公子	報告書作成	子ども教育学部准教授
③「幼児教育の魅力とキャリア形成に関するシンポジウム」	林 富公子	報告書作成	子ども教育学部准教授
④川西市食育フェアにおける「遊び×食育」を通じた幼児教育の魅力伝える活動	林 富公子	報告書作成	子ども教育学部准教授
	鈴木 順子	事業参加	子ども教育学部准教授
	蜂須賀 のぞみ	川西市との窓口	健康科学部特任准教授
⑤幼児教育の魅力伝える動画作成とアンケートの実施	高木 典子	アンケート分析者・報告書作成	子ども教育学部教授
	林 富公子	アンケート依頼者	子ども教育学部准教授
	徳留 由貴	令和5年度 動画作成者	子ども教育学部講師
⑥ TikTok、YouTubeショートを使用した幼児教育の魅力発信	徳留 由貴	報告書作成	子ども教育学部講師
⑦SNSとイベント案内が一体化したチラシ作成と配布	林 富公子	チラシ作成者	子ども教育学部准教授
	徳留 由貴	チラシ作成者	子ども教育学部講師
	松永 有加	チラシ作成者	入試部

#### 2. 研究協力者・研究協力校

本研究の実施にあたっては、多数の研究協力者、研究協力校等のお力添えを頂きました。

ご多用の中、本研究に快くお力をお貸しくださった皆様に、厚く御礼申し上げます。